

まる博ジャーナル

2023 Vol.3

特集 とうかいまるごと博物館活動レポート

「須和間住吉神社資料」調査 東海村古文書調査隊

まる博研究員レポート

ヌルデ虫こぶを見つけに

Diary ~歴史と未来の交流館~

#BACKSTAGE

企画展「化石から探る東海海底 300 万年」ができるまで

博物館長と歩く植物観察会

講演録 考古学者 茂木雅博と東海村

縄文人が選んだ石、瑪瑙。Episode 1

埴輪、
出ました。



令和4年。

ついに、東海村古文書調査隊が始動！



歴史と未来の交流館は、活動を通して東海村の郷土文化を次世代へ伝えていくということが大きな柱となっており、その取り組みの根幹となる事業が東海村全体を博物館空間と捉えて活動する「とうかいまるごと博物館事業」です。「とうかいまるごと博物館事業」とは、東海村をまるごと屋根のない博物館と捉え、村内全域で活動を展開し、郷土理解・郷土愛の醸成を促進する事業です。

このまる博ジャーナルは、とうかいまるごと博物館事業の活動記録及び本村の歴史・自然に関する情報発信の媒体として発行するものです。

村内の文化財についての情報も盛り込まれておりますので、楽しんでいただければと思います。

生涯学習課 令和5年3月31日

表紙 令和3年度・4年度は戸ノ内古墳(石神外宿所在)の発掘が行われ、埴輪が多く出土しました。

まる博ジャーナル

2023 vol.3

contents

- 04 特集 とうかいまるごと博物館活動レポート
- 12 「須和間住吉神社資料」調査 東海村古文書調査隊
- 18 まる博研究員レポート
- 20 ヌルデ虫こぶを見つけに
- 23 Diary ～歴史と未来の交流館～
- 31 #BACKSTAGE
企画展「化石から探る東海海底 300 万年」ができるまで
- 36 博物館長と歩く植物観察会
- 48 講演録 考古学者 茂木雅博と東海村
- 54 縄文人が選んだ石、瑪瑙。Episode 1
- 58 まる博実績一覧

特集

とうかいまるごと博物館 活動レポート *Maruhaku Report*

とうかいまるごと博物館（通称：まる博）は、東海村全体を屋根のない博物館空間と捉え、村内全域に活動を展開する事業です。

東海村では、様々な主体が、郷土を感じ、学べるイベントを実施しています。それらの多様な事業を「まる博」というネットワークでつないで、大きな博物館空間を構成しています。

どんなイベントをどんな主体が行っているのか、その一部をご紹介します！

昼の虫観察会



まる博
presented by

東海村の環境調べ隊

東海村の環境調べ隊とは？

転入・転出村民が多い東海村ですが、子どもたちにとっては東海村がふるさとです。身の回りの自然や文化を知ること、より豊かで楽しい毎日を過ごして欲しいと願っています。大人だけの参加もちろん大歓迎です。改めて今自分が暮らしている地域を見つめてみませんか。

なお、東海村の環境調べ隊は、年間で様々な行事を行っています。興味がある方は生涯学習課にお問い合わせください。

代表 林 京子

東海村の公園にはたくさんキノコが生え、さまざまな虫や生き物たちが暮らしています。専門の先生方と一緒に観察してキノコや虫の名前や不思議なその暮らしぶりを教えてもらいました。この他夏休みを中心に毎月一回程度、天体観測会や探鳥会や、体験講座を開催しています。



すこやかウォーキング

健康づくり計画推進委員が中心となり、村内のヘルスロードを楽しくウォーキングしました。村内を歩くと新たな発見がありますね！



親子ウォーク★まる博

どんな木の实があるのかな？ 歩きながら見つけよう！

11月の木の実が実る頃、親子で白方公園を歩きながら、木の実を見つけました。見つけた木の実がどんな種類でどんな特徴があるのか、安嶋博物館長に学び、実り多い一日でした。

もっと知りたい！健康増進課

健康増進課では村民の健康づくりに取り組み、様々な事業を行っています。

すこやかウォーキングは、毎月1回行っています。体力がある方も自信のない方も、自分のペースで歩くことができます。ぜひ、みんなと一緒に健康づくりに取り組みましょう！

各年代別の健康教室や健康相談など随時行っています。詳細は、広報とうかいや公式HPをご覧ください。

原子力科学館



冬の星座と惑星のおはなし&観望会

「冬の星座と惑星のおはなし&観望会」を12月18日に、小学生とその保護者を対象として実施しました。地球に接近中の火星・木星・土星・天王星、海王星について、クイズ形式で楽しくわかりやすく講演し、夕方からは星空観望会を行いました。天体望遠鏡の観測のほか、望遠鏡からデジタル画像を取り出して液晶プロジェクターでスクリーンに投影し、一度に多くの参加者にリアルタイムで天体を観察していただきました。参加者からは「親子で星を見ることができて満足」「解説をしてもらいながら惑星を見ることができて、いい経験だった」などの感想が寄せられました。

原子力科学館では、今後も親子で参加できるイベントを行ってまいります。



原子力科学館とは？

原子力科学館は、東海村にある放射線や原子力について詳しく学べる展示館です。

—昨年より、ガイダンスシアター「アトミックトラベル」、放射線の飛んだ跡が観測できる大型霧箱、実際に放射線を計測できるコーナーなどをリニューアルしており、見て触れて楽しく学ぶことができます。入場は無料です。詳細はHP参照。

原子力科学館



げんでんウインターフェア

まる博
presented by

げんでん東海原子力館別館

東海原子力館別館では、2022年12月17日（土）・18日（日）に「げんでんウインターフェア」を開催し、2日間で延べ568名の方にご来館いただきました。

工作キットのプレゼントや、VRゴーグルを使用した「東海第二発電所ジェットコースターツアー」をはじめ、パネルを見ながら解くクイズや、自分の力で電気を作った物を動かす発電体験などを実施しました。

中でも「東海第二発電所ジェットコースターツアー」は、VRの中でジェットコースターに乗って発電所の建物を見学するもので、東海原子力館別館での実施は初となりました。慣れないゴーグルに緊張しながらも子供から大人まで楽しむ姿が見られ、大変好評でした。

今後も楽しみながら学ぶことのできるイベントを企画していきますので、楽しみに！



げんでん東海原子力館別館とは？

パネルをご覧いただきながら簡単に答えられるクイズを通じて、エネルギーや原子力について学べる施設です。また、地域の皆様の作品を展示したギャラリー展も開催しております。

年間で様々なイベントを行っておりますのでお気軽にお越しください。

詳細はHP参照

げんでん
東海原子力館別館





とうかい子どもキャンパス

4月29日(金・祝)に交流館や中央公民館、村立図書館を会場として「がっちゃんこ祭り2022」を開催しました!

当日は、まる博事業やスポーツフェスタTOKAI、とうかい子どもキャンパス事業(Tキャン)にご協力いただいているみなさまに、たくさんのブースを出展していただきました。

まる博ブースでは、展示解説に加え縄文ストラップや謎解きチャレンジなどを行い、見たり作ったり考えたりと、1度で3回!楽しく東海村の歴史に触れることができました。

スポーツブースでは、東海村を代表するスポーツ「イモゾーリレー」やフリスビー的当てなどたくさんのアトラクションを行い、たくさんの歓声といい汗かいた子どもたちの姿が見られました!

Tキャンブースでは、プログラミング体験やハーブサッシュづくり、のぶちゃん先生講座など、22年度に実施予定の講座をちょっとだけ体験していただきました。また、ファニーずや茨城大学子どもふれあい隊などの協力により、小学校入学前や低学年の子どもたちにも笑顔があふれ楽しい時間を過ごしていました。

もっと知りたい!とうかい子どもキャンパス

とうかい子どもキャンパスは科学実験や工作、野外活動やスポーツなど、多岐に渡る体験活動を1年間を通して提供していきます!今年も科学実験やものづくりをはじめ、色々な体験活動を計画しています。少しでも興味や面白そうだなと思った講座には参加してみてください。新しい発見がありますよ!

申し込み方法や、最新情報はこちら



東海村の大地を
めぐるツアー



まる博
presented by

TU・NA・GU ジオ

10月1日、「東海村の大地をめぐるツアー」が開催され、17名の方にご参加いただきました。実際に村内を歩きながら東海村の大地の成り立ちや歴史について学ぶことができました。その土地の歴史などを知った上で歩くと今までと違った楽しさを味わえるかもしれないですね。



もっと知りたい! TU・NA・GU ジオ

私たちの活動は、これまで茨城県北地域で培ってきたジオパーク活動を継続・発展させるものです。茨城県の中部から北部の大地は、5億年前の地層が観察できるなど日本列島形成の歴史を紐解くことが出来る特徴があり、豊かな自然と動植物などの生態系に恵まれた地域です。ここで、人々は暮らしの中から歴史をつなぎ、素晴らしい文化や芸術を育み、多くの産業が生まれました。私たちは茨城県北地域の大地の成り立ちと魅力を学び、多くの方に知っていただき、そして、将来に向けて守り続け、地域の振興に繋げる活動を進めてまいります。

2022年のJ-PARC ハローサイエンスから一部をご紹介します。

6月は、50名の方（オンライン含む）にご参加いただきました。加速器で発生させた中性子を使ってがんを治すホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の開発が進んでいます。BNCT照射装置の加速器部分は、J-PARCで開発された技術を転用して製作されたことについて説明しました。

8月は、J-PARC オンライン施設公開 2022の中で実施しました。名古屋大学から講師をお招きし、宇宙の起源をも解明する可能性を持つニュートリノの魅力と、写真フィルムを使ったニュートリノの測定技術や海外での実験経験などをお話していただきました。

なお、J-PARC チャンネル (<https://www.youtube.com/@j-parc457/videos>) にて J-PARC ハローサイエンスの動画をご覧いただけます。

J-PARC チャンネル



「加速器を使ったがん治療（BNCT）」と題する J-PARC ハローサイエンスを実施（6月）



J-PARCオンライン施設公開の中で、ハローサイエンスを実施。（8月）

ハローサイエンスとは？

J-PARC センター主催で毎月1回、世界で活躍する研究者や技術者と研究成果や技術開発について気軽に語りあえるイベントです。2016年12月から始め、2023年3月で70回目を数えました。参加費無料、オンラインからも参加できます。サイエンスの世界を覗いてみませんか？

→ 詳細はHP参照 (<https://j-parc.jp/c/events/index.html>)

J-PARC の Twitter をフォローしてください。ハローサイエンス等のお知らせを発信致します。 (https://twitter.com/J_PARC?ref_src=twsrc%5Etfw)

J-PARC HP



J-PARC Twitter





フグ!!



フィールドワーク

シェリーとビーチコーミング

8月、豊岡海岸にてとうかいまるごと博物館講座「シェリーとビーチコーミング」を実施しました!みんなで貝殻や、カニの甲羅、ヒトデなどの漂着物を拾い、観察しました。

猛暑との予報だったので心配でしたが、意外にも涼しく、みなさん気持ちよさそうに海岸を歩き回っていました。



脱穀体験

おだかけで干した稲を足踏み式脱穀機(ガラコン)を使って脱穀しました!

脱穀したお米はお持ち帰り!

まる博講座『白方城と白方氏』

高橋裕文先生を講師に迎え、「解明するシリーズ3部作」として「石神城」「天神山(真崎)城」「白方城」の3つの城をテーマに講座を行いました!



まる博
presented by

歴史と未来の交流館

歴史と未来の交流館では、村内の自然や歴史についての様々なイベントや講座を実施しています。その中の一部をご紹介します!

「須和間住吉神社資料」調査 東海村古文書調査隊

東海村古文書調査隊結成

令和四年（二〇二二年）九月七日、第一回東海村古文書調査隊の活動を開始しました。メンバーは一七名で、月に一度活動しています。現在、調査している資料は「須和間住吉神社資料」です。東海村須和間地区にある神社の資料で、宮司宅に所蔵されていたものを茨城県立歴史



館に寄託、昨年度東海村歴史と未来の交流館の開館に伴い、地元・東海村に帰ってきました。メンバーの中には、須和間地区在住者もいるため、興味を持って取り組んでいます。

「須和間住吉神社資料」は、段ボール箱三つ分もあり、千点近くの資料があると考えられます。令和四年度は全七回の活動を行い、一五〇点近くの資料を調査・整理しました。初心者が多いこともあり、調査は四人ほどのグループで話し合いながら進めました。

活動記録

〈第一回〉

日時…九月七日（水）

場所…歴史と未来の交流館活動室2

概要…歴史資料を保存継承、調査・研究することの意味についてお話ししました。また、東海村が今まで行ってきた歴史学調査や須和間住吉神社の概要を確認しました。法律や言葉の定義など硬い話になりました。

〈第二回〉

日時…十月五日（水）

場所…歴史と未来の交流館活動室2

概要…現状記録の作成と目録作成を行いました。現状記録は、資料がどのような状態で保存されていたかを記録する作業です。関連する資料は連続していたり、年代が近いものは同じまとまりで現在まで伝わっていたりすることがあります。このような情報も、歴史を知るための貴重な情報になります。



また、目録作成は一つ一つに資料をよく観察し目録化する作業です。絵葉書と古写真が多く、四〇点分の目録を作成しました。資料年代は、明治後期～昭和五〇年、大谷清彦氏は大洗磯前神社の称宜だったこと、須和清彦氏名義の資料があること、須和間住吉神社本殿は昭和四二年に銅板に葺き替えたことなどが分かりました。

概要…近代の神社制度や紀元二六〇〇年記念事業といった前回調査資料に関連する事柄を学び、その後目録を作成しました。四三点の目録を作成し、大谷清彦（須和清彦）氏の経歴が少しずつ分かってきました。

〈第四回〉

日時…十二月七日（水）

場所…歴史と未来の交流館活動室2

概要…調査してきた資料が観光で有名な大洗や絵葉書が多いこともあり、観光の歴史を学びました。また、大谷清彦氏の写真などを時系列に整理しました。四六点の目録を作成し、戦前期に大谷氏が東京に在住していたことや東海村教育委員であったことなどが分かりました。

〈第五回〉

日時…一月十一日（水）

場所…歴史と未来の交流館活動室2

概要…四点の文字資料を解読・翻刻しました。翻刻とは、崩し字などで書かれた資料を解読して、文字に起こすことです。研究のための資料集をつくる作業を行います



た。読みにくい文字もグループで文脈や「くずし字」の辞書を参考に解読しました。

〈第六回〉

日時…二月八日(水)

場所…須和間住吉神社

概要…これまでの調査で断片的に分かった情報をふまえて、現地視察を行いました。神社の植生や石造物の観察・解説、建造物の観察を通して須和間住吉神社の歴史を学びました。



〈第七回〉

日時…三月

八日(水)

場所…歴史と未来の交流館活動室

2

概要…現地視察の振り返りと古文



書の解読・翻刻、今年度の成果をまとめました。

須和間住吉神社の概要と

東海村古文書調査隊の

研究結果中間報告

高増 慧

現在、整理・調査している「須和間住吉神社資料」は、社務所の取り壊しに伴い、茨城県立歴史館に寄託された資料が、東海村歴史と未来の交流館の開館に伴い寄贈されたものです。

段ボール箱三箱分の資料があり、今年度は、一箱目の六割ほどを整理・調査しました。末尾に活動の中で作成した資料目録の一部を掲載しました。この目録からうかがえるように、絵葉書や古写真が多い資料群になっています。近代日本の神社と観光の密接な関係が分かる資料群ともいえます。年代や内容から、須和間住吉神社で宮司をつとめた「須和清彦」氏の資料であると考えられます。個人的な資料が数多く、須和間住吉神社の歴史を物語る資料は限られています。このため、今年度の成果としては、①翻刻資料や現地視察から須和間住吉神社について、②須和清彦氏についての二点が挙げられます。

〈須和間住吉神社について〉

須和間住吉神社は、祭神が底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功後の四神で和銅元年(七〇八)橘諸兄が奥州下向の際に創建したといわれています。その後、足利持氏が三五貫文の地を寄進も、永正三年(一五〇六)社殿炎上、寛文中(一六六一―一七三)徳川光圀の命で社殿を修営したと境内の石碑にあります。境内社に上諏訪・下諏訪の二社がありますが、この二社の中間にあった住吉神社及び村であることから「須和間」という地名がついたと言われています。近世以後、大谷氏が代々宮司をつとめ、享保年間には吉田家から神道裁許状を受けています。

明治四十年幣帛神膳料供進の神社となると、厳肅な祭祀儀礼や宝物の保存が課題となり、経営状況改善のため、明治四十二年、発起人十名、協賛人六名により「住吉神社保存会」が創立されました。品評会の収益をはじめ定額の御祓いなどによる収入を神社に寄付しました。

大正四年の帳簿を読むと、収入から二五三円七七銭九厘、支出が二三三円であったことが分かります。収入は小作料が全体の四四パーセントを占め、田小作七〇円九五銭、畑小作四一円五五銭三厘合わせて一一二円五〇銭三厘でした。氏子寄付金二〇円のほか、保存会の寄付金が二〇円とあります。黒字額が二〇円ほどであることをふまれば、保存会なし

に神社経営が難しかったことがわかります。支出は神職者への給与が一〇〇円と四二パーセントをしめ、その他は祭祀儀礼のお神酒や所有する土地の税金に使われました。

昭和六年の資料から神社が所有する田畑の収入が五十六円あったことが分かります。半分近くの収入を小作料から得ていましたが、昭和恐慌の影響からか大正四年と比較し半分近くに減少しています。

〈須和清彦氏について〉

戦前期は「大谷」姓を名乗り、代々須和間住吉神社宮司をつとめた家系の人物と考えられます。戦前期は大洗磯前神社・酒列磯前神社の称宜をつとめました。このため、当資料群には同神社や磯濱町(現大洗町)の資料が数多く残されています。また茨城県神社係や神祇院の神職講習会、箱根神社、日枝神社にも関係し、エリート官僚の性格も有していました。戦後は「須和」姓に改姓し、須和間住吉神社の宮司となりました。また、東海村教育委員としても活躍したことが分かっています。

No.	名前	年代	役職	備考
1	大谷清彦	大正元年		文書番号 121、18 歳、東京にて
2	大谷清彦	(大正年間)	(茨城県庁雇)	文書番号 80、水戸市在住の頃の写真
3	大谷清彦	大正11年		文書番号 83、28 歳の頃の写真
4	大谷清彦	大正12年	茨城県庁神社係	文書番号 36、29 歳の頃の写真
5	大谷清彦	(昭和前期)	東京永田町日枝神社囑託	文書番号4
6	大谷清彦	(昭和前期)		文書番号 128、日枝神社へ転任につき
7	大谷清彦	(昭和8年)	大洗磯前神社祢宜	文書番号 87、渡里地区軍飛行学校地鎮祭
8	大谷清彦	昭和10年 (1935)	大洗磯前神社祢宜	文書番号 49、42 歳
9	大谷清彦	昭和14年	大洗磯前神社祢宜	文書番号 48、秩父宮殿下
10	大谷清彦	(昭和前期)	(大洗磯前神社祢宜)	文書番号 44、君島県知事、平輪町長ほか
11	大谷清彦	(昭和前期)	(大洗磯前神社祢宜)	文書番号 77、磯濱町タヤマ写真館
12	大谷清彦	(昭和前期)	(大洗磯前神社祢宜)	文書番号 55
13	大谷清彦	(昭和前期)	大洗磯前神社祢宜	文書番号 22・66、内務省講習会
14	大谷清彦	昭和15年	大洗磯前神社祢宜	文書番号 95、戦没軍人慰霊祭写真
15	大谷清彦	昭和16年	大洗磯前神社祢宜	文書番号 45、
16	大谷清彦	昭和16年	大洗磯前神社祢宜	文書番号3、満州国横道河子部隊河辺三郎からの絵葉書
17	大谷清彦	昭和16年	(大洗磯前神社祢宜)	文書番号 30、酒列磯前神社にて
18	大谷清彦	(戦中期)	(大洗磯前神社祢宜)	文書番号 29/33、大洗防空監視詰所写真
19	須和清彦	(昭和27年)	(須和間住吉神社宮司)	文書番号 59、58 歳力
20	須和清彦	昭和29年	(須和間住吉神社宮司)	文書番号 52
21	須和清彦	(昭和後期)	(船場稻荷神社役員)	文書番号 56
22	須和清彦	昭和37年	(須和間住吉神社宮司)	文書番号 2、神社庁那珂支部受領書
23	須和清彦		東海村教育委員	文書番号 68
24	須和清彦		東海村教育委員	文書番号 82
25	須和清彦	昭和49年	住吉神社宮司	文書番号 75、多年功績表彰

【翻刻資料】

○箱2文書番号1

明治四十三年八月起

献穀

品評会 会計簿

住吉神社保存会

住吉神社保存会創立費

明治四十一年十月 一、金貳円

四貳年八月二日 一、同貳円

同八月四日 同五拾四錢五厘

同十一日 同八拾五錢

同十四日 同拾七錢五厘

同十日 同老円貳拾錢

同十三日 同貳拾錢

同二十日 同五円五十錢

計拾貳円四拾七錢

右創立費

同二十一日 金四拾八錢

八月二十日 金七十二錢五厘

同二十七日 同五錢

同二十七日 同六錢

同二十七日 同五十九錢

同二十七日 同八十錢

同二十七日 同二十二錢

同二十八日 同一円

同二十八日 同十六錢五厘

同三十日 同一円二十一錢

同三十日 同二円九十七錢

協議会之節酒代

旨趣書印刷費五百枚二百枚

硯箱筆墨辭令用紙状袋

会印并会长印並二ツ

土佐半紙百枚蠟引百枚

各村書面依頼六人食料

会长菅谷郡役所出頭実費

陳列箱貳拾新調代

各村区长へ葉書料

礼紙并用紙代

金紙拾枚代

神職雇郵便錢

通信葉書代三拾八枚

審査節酒代

白米一升五合代

白米六升八合代

供餅一升代

菓子二百二十個

商品二十九品代

同三十日 同九十三錢

同三十日 同八十錢 備品肴品並麻裏四足

同三十日 同十六錢五厘 白足袋四足

同三十日 同三十錢 画用紙並水引代

同三十日 同四十錢 醬油

同三十一日 同四十四錢 水戸行弁当料二人

同三十一日 一、一円五十錢 御神酒代

同三十一日 一、三十錢 幣物

同三十一日 一、五十錢 祭官二名謝儀

同三十一日 一、九錢 玉砂糖

同三十一日 一、十錢 蠟燭十挺

同三十一日 一、八十錢 幻燈師謝儀

九月一日 一、十三錢五厘 うんどん三束

同一日 一、六十錢 菅谷まで往復車代

九月一日 一、金六錢 玉子三ツ

同一日 一、二十錢 雇給

同二日 一、六十錢 酒代

同二日 一、三十錢 雜費

計金十六円十五錢

支出總額合計金二十八円六十錢

收入金同 三十一円六十六錢二厘

收支差引金 三円〇四錢二厘

四十二年九月二日 決算

会长 大谷常業

(中途)

○箱2文書番号2

昭和六年一月 自昭和六年一月

至同十年十二月 滿五ヶ年

神社所有田畑小作取立帳

村社 住吉神社

内訳

一、金十五円五十五銭 表組
 一、金二十円九十二銭 東組
 一、金十円四十七銭 西前組
 一、金九円四十五銭 西後組
 計金五十六円三十九銭

(中途)

○箱2文書番号3

大正四年度収支出納簿

競馬宮

住吉神社社務所

十五日 祈祷料 一〇〇
 同日 賽銭受入 一四五
 同日 神酒料支出 五〇
 同日 神供料支出 四〇
 二十一日 祈祷料受入一〇〇
 同日 膳本請求印紙料支出 三四〇
 同日 雜費支出 一五〇
 二十九日 地租割村税支出 三六三〇
 三十日 基本金利子受入 一七〇〇
 同日 銀行出頭旅費支出 一〇〇〇
 月計 二五五四一
 通計 二五五四一
 五月一日 賽銭受入 五〇
 五月一日 神供料支出 四〇
 二日 祈祷料受入 一〇〇

三日 耕地整理費支出 一八五〇

同日 前同滞納利子 一〇〇

六日 祈祷料受入 一〇〇

十五日 賽銭受入 八五

同日 神酒料支出 五〇

同日 神供料支出 四〇

二十二日 区内祈祷料受入 二〇〇

二十八日 祈祷料受入 二五〇

二十九日 田租第四期支出 二六三二六

月計 七八五

通計 二六三二六

(中略)

(三月廿九日)

全日 保存会寄付金 二〇〇〇〇

全日 田租納税支出 二八四五

全日 地租割追徴支出 三五〇

三十日 田小作金受入 七〇九五〇

全日 氏子寄付金受入 二〇〇〇〇

全日 神職俸給支出 一〇〇〇〇〇

全日 氏子総代会議費 九〇〇〇

全日 守札調製費支出 一五〇〇

全日 境内掃除人夫料支出 三〇〇〇

全日 注連縄荒蒭料 三六〇

全日 諸雜費支出 五〇〇〇

月計 一二四二八五

通計 二五三七七九

一五一一三五

二二三六四五

須和間住吉神社資料目録

文書番号	表題(内容)	年代	差出・作成	宛名	形態	員数	備考
1	〔写真、人物1名〕	—	—	—	写真	1	裏面にペン書き「スワ清彦友人安曇君曰く「ロマンスグレイ」と」とあり
2	振替貯金受領証(8000円)	(昭和)37年1月12日	茨城県神社庁那珂支部	東海村須和間須和清彦殿	状	1	封筒とも表書き「東海村須和間須和清彦殿」裏書「茨城県那珂郡大宮町下町221番地茨城県神社庁那珂郡支部 昭和年月日」、37.3.12消印
3	〔絵葉書、健康の様子で安心につき〕	2596年12月2日	満州国牡丹江省横道河子部隊河辺三郎	茨城県磯濱町大洗国弊中社大洗磯前神社称宜大谷清彦殿	葉書	1	神戸湊川神社別格官幣社の絵葉書
4	〔写真、東京都麴町区永田町日枝神社社務所囑託大谷清彦〕	—	—	—	写真	1	「日枝玄関ニテ 大冬」
5	〔写真、兵隊ら5人の集合写真〕	—	—	—	写真	1	
6	〔写真、「私の家の庭で主人と二人で」〕	昭和50年8月	—	—	写真	1	カラー写真
7	〔写真、「みちこの花嫁姿 早稲田大学大熊会館にて」〕	—	—	—	写真	1	
8	〔写真、葬式行列〕	—	—	—	写真	1	「故根本婦人玖麻比賣白石氏の墓」
9	〔絵葉書、官幣大社賀茂別雷神社競馬会神事 警固(モクリコクリ) 埴内ヲ渡ル〕〕	(明治40年代~大正期)	賀茂別雷神社発行	—	葉書	1	
10	〔絵葉書、国弊中社大洗磯前神社境内大洗山の全景〕	(明治40年代~大正期)	社務所発行	—	葉書	1	「OARAI MEISHO」
11	〔絵葉書、国弊中社大洗磯前神社御手洗〕	(明治40~昭和7年)	—	—	葉書	1	
12	〔写真、「住吉神社本殿屋根銅板葺替工事」〕	昭和42年9月25日	—	—	写真	1	裏シミ、左上折れ線
13	〔写真、須和間住吉神社年取り祭〕	—	—	—	写真	1	裏面ペン書き「須和間住吉神社年取り祭須和宮内」
14	〔写真、大洗神幸祭〕	—	—	—	写真	1	大谷孫重騎馬
15	〔写真、大洗神社禊行事〕	—	—	—	写真	1	裏面ペン書き「大洗社ニテ禊行事」
16	〔写真、若い女性〕	—	—	—	写真	1	写真の裏に糊付け痕、名刺サイズ
17	〔写真、栗田姉方法事〕	—	—	—	写真	1	水戸谷田 寶蔵寺にて撮影
18	〔写真、大洗自衛団結団式記念〕	昭和12年9月17日	—	—	写真	1	磯浜ハギシマ
19	〔写真、紀元2600年記念大祭大洗神社神幸祭記念騎馬大谷称宜〕	大正15年	—	—	写真	1	
20	〔写真、矢場開き〕	—	—	—	写真	1	大洗磯前神社境内にて

(中略)

130	〔写真、湖畔〕				写真	1	
-----	---------	--	--	--	----	---	--

まる博 研究員 レポート

村内外で活躍する「まる博研究員」達からの報告です！

歴史と未来の交流館研究員（通称・まる博研究員）とは？
約1年間の養成講座を修了し、歴史と未来の交流館を拠点に地域の歴史や自然に関心を持ち調査・研究等様々に活躍している方々です。

Report

1

初めて遺跡発掘調査を見学して

まる博研究員 奈良原 清美

5月19日、豊岡宮前遺跡の発掘調査を見学しました。

白方小学校、学童クラブの前の道路をはさんで民家の建つところだそうです。遺跡らしいとの連絡をいただき、村が自分たちで発掘調査することになりました。実際の遺跡の発掘現場に接して興奮しました。平安時代位のものではないかとのことだそうです。

3隅に太い柱の跡残りの1隅は舗装道路の下ではないかとの事で確認は出来ていません。竈跡や家の中には多数の土器の破片がありました。敷地のまわりに勾玉や丸い玉が置かれ、何らかの理由で引っ越しをする時にお祓いをするとか清めるような意味合いがあったのかもしれないとの事でした。これらの破片を村の係の方々が組立てる気が遠くなるような長い時間を思い浮かべました。

東海村やその近辺、いや日本列島全体に私達の祖先が住み、現代の私達がその



上の台地にまた住み続けていく事を思う時、古代からの変化を現代の人達が次の世代に記録を残しておきたいと思つていきます。

Report

2

「博物館長と歩く植物観察会」に参加して

まる博研究員 鈴木 さちよ

歴史と未来の交流館前に集まり、植物観察しながら中丸・須和間地区を徒歩で散策。参加人数は15名弱。思い思いに植物の名前を確認して写真やメモで記録を残す。冬の間は、落葉樹が葉を落とすので林の構成を観察しやすい。高木、亜高木、低木、草本と確認する事ができた。高木の子孫が芽をだし、次世代の林を構成すべく育っている様子も見ることができた。ただ、フジのつるやシノ類が密生してしまつと林は藪となつてしまい、草本層へ太陽の光が届かなくなり生態系が乱れてしまうそう。かつては、煮炊きする燃料として落ち葉や枝を拾い持ち出していたこともあり、人が入ることによつて美しい林が保たれていたと聞いた。今では、人が林に立ち入ることもなく、利用されなくなり、暗く治安が悪くなつたり、伐採され太陽光パネルの設置場所などになつている。持続可能な集落や自然を考えた場合、住環境の周辺はどうあるべきかと考えさせられる。観察会は毎回「虫こぶ」「冬芽や樹皮」「冬越しする植物」などテーマを設けて、身近な植物がどのようにに生育しているのかを観察する。ペ

テランの博物館長と歩くことにより、記



録の取り方や植物の特徴、名前の由来、薬草の利用方法など幅広い知識を得る事ができ、健康的なウォーキングの機会にもなっている。年間を通じて地域の自然を観察する事で今まで知らなかった地域の歴史や環境をより深く理解する事ができる取り組みは、一回からでも一人でも参加でき有意義だ。何回か会を重ねる事で顔見知りができ、楽しさも増している。これからの活動も楽しみだ。

万葉集巻二十には、万葉期の東海村地域が属した久慈郡と那賀郡出身の防人の歌が三首収録されている。これらの歌を通じて、防人たちの心情や当時の状況を考察してみたい。

●久慈郡の丸子部佐壯の歌一首

久慈川は 幸くあり待て潮船に
ま楫しじ貫き 我は帰り来む

作者は、久慈川は変わりなく待っていてよ、と、久慈川をあたかも親しい人のように詠んでいる。作者にとって久慈川は、かけがえない生活の場であったのであろう。故郷を離れて、強くそのことを意識し、現実には出来ないことを承知の上で、大きな海上用の船で帰る喩えで、無事の帰郷の希望を詠んでいる。このことから、作者の心は、この元氣な歌とは真逆の、望郷の哀しみに満ちていたのではないか、と思う。

●那賀郡の上丁大舎人部千文の歌二首

筑波嶺の さ百合の花の夜床にも

愛しけ妹ぞ 昼も愛しけ

●霰降り 鹿島の神を祈りつつ

皇御軍士に 我れは来にしを

この二首の作者が同じであることと、第二句の文末の助詞「を」も考慮して二首を合わせて読むことにする。作者は鹿島の神に祈り、天皇の兵士として義務感



まる博 研究員 影山 稔

をもってやってきた。一方、残して来た愛しい妻を想う心は日に日に募るばかりなのだ。この歌からは、ままならぬ現実に揺れる作者の悲哀が切なく伝わってくるようである。

東国から徴発された防人は、役人に統率されて難波津に集結し、船で北九州沿岸に着任した。赴任費用や武器も自弁であり、免税措置もなかった。三年間の任期を終え、帰郷も自弁であり、途中で死する者もあった。防人歌の裏側には、徴兵された者と残された家族の苛酷な生活があり、その歌は、律令制度下の農民たちの嘆きの発露ともいえる。この歌の作者らは、軍務を終えて無事に帰郷できたのであろうか。

9月から博物館長講座と観察結果のふり返りに参加したので、その中から一部を紹介いたします。

期日・2022年11月19日(土)

観察テーマ・身近な植物の実とタネ
場所・石神城址公園



博物館長の案内・説明のもと、18名の参加者とともに、石神城址公園の植物を観察しました。

今回は、子ども達の参加もあり、珍しい植物を見付けては盛り上がり、楽しく観察することができました。



ムラサキシキブの実



マムシグサ類の実



ホオノキ 落ち葉とタネ



キブシの実

56種類の実と種を観察しましたが、写真を撮りながら記憶するのは、なかなか大変なことでした。しかしながら、身近な場所にこんなにも多くの実や種がついていることを改めて実感しました。これは実か、種か、花なのか、昨年、まる博研究員養成講座のフィールドワークで学習したことを思い出しながら、写真に収めていきました。

気になった樹木は、前回同様、ウワミズザクラです。今回もたくさん写真撮影し、詳しい説明を受けたことで、いっそう知識を深めることができました。他にも、ホオノキの枯れ葉と種が面白く、試しに種をまいてみることにしました。はたして芽が出るのでしょうか。

身近な植物の実や種の不思議さについて大いに触れるよい機会となりました。

まる博 研究員 立川 義雄

ヌルデ虫こぶを見つけない

まる博 研究員 山本 美恵子

はじめに

毎月1回の「植物館長と歩く植物観察会」で安嶋館長から「今度、虫こぶをやりますよ」と見せてもらった「虫こぶハンドブック」(薄葉 2004)の中にひととき特徴ある形のヌルデ虫こぶ(ヌルデミミフシと呼ばれる。)が目にとまった。

ヌルデの木は山野に普通にみられる落葉小低木ということなので、自宅周辺を趣味であるジョギングをしながら、ヌルデ虫こぶ探しを令和4年8月からスタートさせた。

※「虫こぶ」とは、植物に寄生したアブラムシやダニなどの虫によって葉、莖、芽、などが異常に発育してこぶ状になったものをいう。植物の種類ごとに独特の形があり、ヌルデの葉に形成されるヌルデミミフシがよく知られている。

1 ヌルデの木とその虫こぶ(ヌルデミミフシ)について

ヌルデは日本全国の山野に自生するウルシ科の落葉樹。丈夫で高い繁殖率を持ち、工事後の法面や伐採された明るい更地でもよく育つ。かつてヌルデの樹液は器の塗料などにも使われていた。新緑のころに一匹のアブラムシ(ヌル



▲写真1 ヌルデ 村松 2022.8.28

デシロアブラムシ)がヌルデの葉に物質を注入して虫こぶを作る。

春から秋にかけて、ヌルデミミフシのなかで、翅(はね)のないアブラムシが繁殖を繰り返し、秋になると翅がはえたアブラムシが生まれてくる。虫こぶに穴が開くと、翅の生えたアブラムシが飛び出す。そして特定のコケ類(チヨウセンゴケの仲間)に卵を産んで、幼虫で越冬する。タンニン酸を多く含むため、昔からお歯黒や染料、皮なめしの材料として知られている。

2 観察期間とその経過

令和4年8月28日～11月24日まで

計89日

8月28日…細浦の天神山入口付近にヌルデミミフシらしきもの1個発見。早速、スマホで写真を撮り安嶋館長に見て頂く。

「ヌルデの虫こぶ、ヌルデミミフシですよ。」と返答を頂き今日から探すぞと決めた日に見つかるなんて、ラッキーと喜ぶ。

8月31日…何気なく立ち寄った「絆」に続く坂道(東海病院の前の道路から続く)の途中でヌルデミミフシ発見。



▲写真2 ヌルデミミフシ 村松 2022.8.28



▲写真3 ヌルデミミフシ 村松 2022.10.2

ヌルデの木は数本あり、虫こぶも目視で5〜6個くらいある。意外に多く見つけたので軽く興奮する。

その後もジョギングをするときは、常にヌルデの木を探すようになり、首が痛くなるほどだった。しかし、その甲斐あって、表1のように通称「東海村最後の秘境」で2か所、須和間の住吉神社付近で2か所で見つけることができた。

白方溜め池、村テニスコート付近の林などもさがしてみたが、ヌルデの木は見かけても虫こぶは発見できなかった。念のため11月になり、落ちた虫こぶがないか現地に行ってみても見つからなかった。

3 ヌルデミミフシの発見場所

ヌルデミミフシは以下の4カ所で見、確認した。



- ①村松（細浦農道、天神山入口付近）
- ②村松（東海村最後の秘境）
- ③須和間（住吉神社近く）
- ④村松（絆に続く坂道）

10月10日…ナルデの実の表面に白い結晶のようなものが付き始める。安嶋館長から「昔の人は塩の代わりにこれを舐めていたそうです。ぜひ試してください。」と教えて頂き、実行してみました。

その前に塩分測定器で計ってみる。結果は全く反応なし。この結晶は塩ではなく、「リンゴ酸カルシウム」とのこと。

では早速、味見をしてみる。最初に舌に軽くピリツと来た後、塩味を感じ酸味がきて後味スツキリ。昔の人が塩と間違



▲写真4 ナルデの実 村松 2022.10.16

表1 発見地のナルデミミフシ内訳

場所名	確認本数	幹回り	樹高	虫こぶ数(目視)	雄、雌の区別
①	2本	13~30cm	2~6m	2個	雄 1本 雌 1本
②	8本	11~37cm	4~6m	8個	すべて雌株
③	4本	17~23cm	2~3m	6個	雄 2本 雌 2本
④	6本	8~23cm	2~3m	10個	すべて雌株



▲写真5 ナルデミミフシの穴 村松 2022.10.19

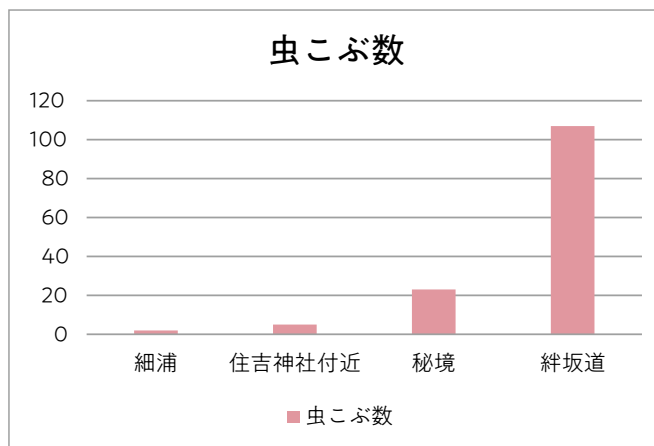
えるのも無理はないと思った。私個人の好みとしては結晶ができる前の実をこすって舐めた方がどくどくなくおいしいと思う。

10月18日…虫こぶに小さな穴が開いているのを確認。そろそろ越冬の準備を始めたい。この穴から翅の生えたアブラムシが近くのコケ類に移動している。

11月…役目を終えた虫こぶが木から枝ごと、もしくは虫こぶのみ地面に落ちてくるのを発見。この日から落ちた虫こぶを集めを開始した。大部分が枝にくっついてたままなので、走りながら家に持ち帰るのは結構な荷物だった。多い時には両手に持って走った。

4 集めたナルデミミフシ数

細浦 2個
住吉神社付近 5個
秘境 23個
絆坂道 107個
137個



5 結果

集めたナルデミミフシの総数は137個。目視とは相当かけ離れた数であった。約80%が「絆坂道」で集めたもので、圧倒的な多さであった。もう落ちていないだろうと思いつつ行ってみると、まだ落ちておりそんな日が数日間続いた。



▲写真6 集めたヌルデミミフシ 2022.11.3

虫こぶの楽園であった。「絆坂道」にはすぐ近くにコケ類がたくさん生えており、越冬するには絶好の場所と思われる。他の場所でもコケ類をさがしてみたが、「絆坂道」以外では細浦農道と秘境でようやくこれかなと思えるコケ類があったが、道路の端に生えていたり、用水路にかかるコンクリートの橋に細々とみられる程度であった。

住吉神社近くでは林をさがしたが、コケ類はわからなかった。

「絆坂道」と同じような環境の村テニスコート付近の林や「絆坂道」から数メートルしか離れていない場所にヌルデは生育していたが、ヌルデミミフシは見つからなかった。ヌルデとコケ類があれば虫こぶができるというものではないらしい。

目視と実際の数の違いについては、葉と虫こぶの違いが分かりにくく、風などで吹くと揺れるため場所を特定するのが難しかった。

さらには雄株と雌株に作られる虫こぶの形や数にも違いがあった。雄株はひらひらとした花のような虫こぶに対し、雌株は人の耳のようなずんぐり型。作られた数も雄株には1個ずつ、雌株は複数だというのも不思議だった。これらの違いについては既存の文献には触れられていないので、次年度は詳細な調査を実施してみたい。

6 セツかく集めたヌルデミミフシなので、染色に挑戦してみた。

材料は

- ・ヌルデミミフシ100g
- ・錆びた鉄くぎ数本
- ・フェルト化した羊毛2枚
- ・水適量



▲写真7 染色した埴輪(左)と土偶(右) 2023.1.12

方法
材料をグツグツ土鍋で煮る事数十分、一晚放置しておく。染色液は黒でフェルトも黒っぽくみえたが、取り出して乾かしているうちに茶色になった。
セツかくなので埴輪と土偶を作ってみた。体の文様や目、口は木の実や縄文時代の衣類や袋の材料になったカララムシの繊維を利用した。

7 最後に

今回、ヌルデミミフシを観察してみても小さな虫たちの生活の一部を見られたことは有意義だった。
お歯黒や染料などを通して人との関わ

りもあり、昔はどのように使われたのか非常に興味がある。

集めたヌルデミミフシは多いのか、少ないのか、比較できなかったので不明である。

例えば東海村の既婚女性が今全員でお歯黒をやりはじめたら足りるのか。そもそも、地産地消だったのか。加工したものを購入していたのか。

江戸時代、激しい労働で疲れ切った女性が お歯黒をする精神的余裕があったのか。同じ女性として、とても興味がある。東海村に江戸時代などの一般の人の生活や習慣を書いた女性目線の資料などあれば是非とも見てみたいと思った。

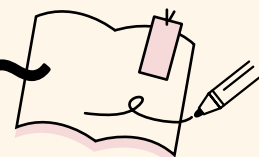
令和5年の春にも、また元氣なヌルデとヌルデミミフシを見に行ってみたい。

参考図書

- 湯川淳一・梶田 長 1996 原色日本虫えい図鑑 全国農村教育協会
- 薄葉 重 2004 虫こぶハンドブック 文一総合出版
- 薄葉 重 2007 虫こぶ入門 八坂書房

Diary

～歴史と未来の交流館～



交流館の活動の記録を一部紹介します！

【会期】 令和4年3月25日～令和4年7月8日

【場所】 歴史と未来の交流館 展示室1

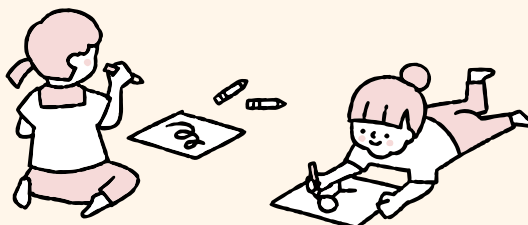
春

3月～6月

March - June
MARUHAKU JOURNAL

まる博マルシェ

令和3年度「東海村未来ポスト」
○年後の物語」にてポストに投函さ
れた絵を大公開！
未来は一体どのような東海村の姿に
なっているのでしょうか？ その一部を
紹介します！



『東海村の未来予想図★大博覧会』

夏
7月～9月

July - September
MARUHAKU JOURNAL

企画展示

【会期】 令和4年7月23日～令和4年9月30日

【場所】 歴史と未来の交流館 企画展示室

80年の苦難の歴史×近代東海村域の大事業

絵図から見る真崎浦の干拓

初公開 明治時代の真崎浦干拓絵図

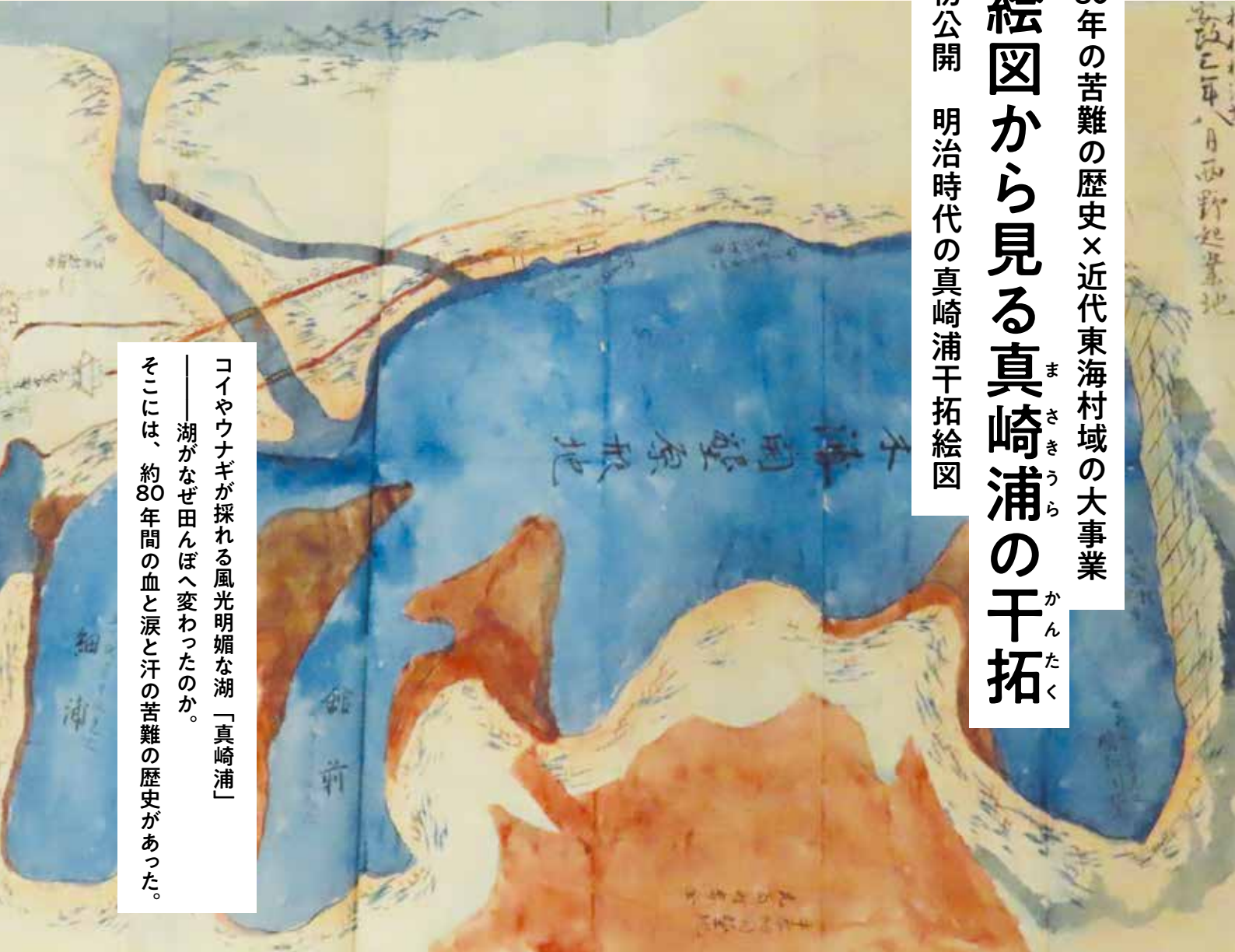
コイヤウナギが採れる風光明媚な湖「真崎浦」
——湖がなぜ田んぼへ変わったのか。
そこには、約80年間の血と涙と汗の苦難の歴史があった。

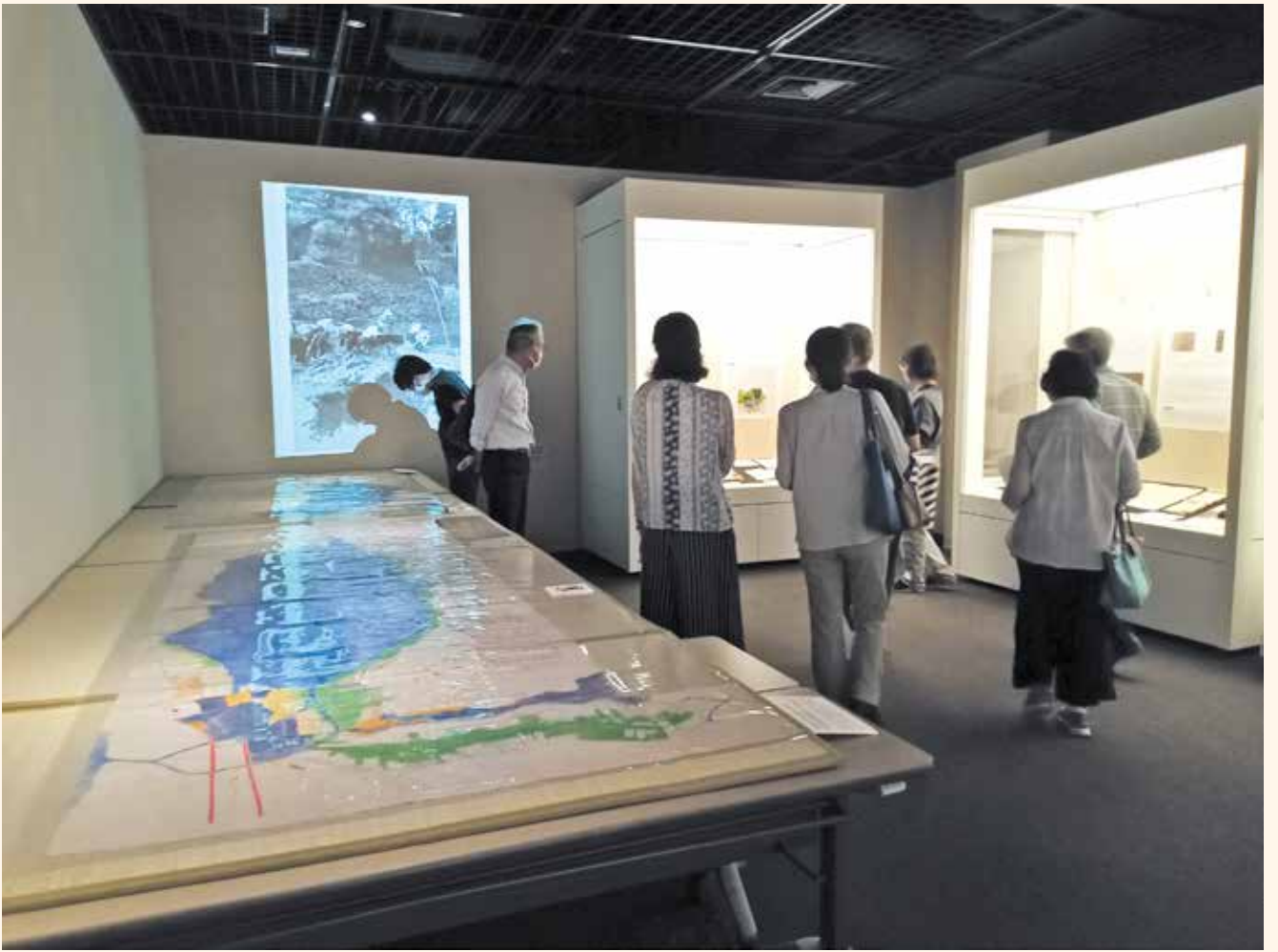
風光明媚でウナギやコイヤフナなどの魚がたくさんとれ、レンコン栽培もしていた真崎浦でしたが、周辺の村々を苦しめる存在でもありました。

真崎浦から太平洋へと細くつながる水路は、吹き上がる砂によって度々閉塞されてしまい、また真崎浦の水面は最大満潮時には海面よりも75cmも低いため排水もできず、大雨の度に水があふれ、周辺の村々に深刻な水害をもたらしていたのです。

そこで、洪水被害に苦しむ人々を救い、食糧増産を図るために湖沼を干拓して水田に変えようと立ち上がったのが、湊村（ひたちなか市）の西野長治郎でした。西野長治郎は弟新介の名で真崎浦（広浦と細浦）及び周辺の荒地の開墾を水戸藩に願い出て安政3年4月に許可されます。

こうして西野長治郎による湖沼「真崎浦」を水田へと変える真崎浦の干拓事業がスタートしたのです。





しかし水の量が多く干拓は思うように進みませんでした。幾度もの中断・再開を経て、4回目の干拓が行われたのは昭和8年でした。その工事主体は真崎浦耕地整理組合、設計は茨城県耕地課が行い、工事は当時真崎浦に40町を所有していた鴻池組が行いました。

その結果、昭和13年、総面積131町歩の美田「真崎浦」が誕生したのでした。

こうして、安政3年から始まった真崎浦の干拓は4回目にしてようやく完成したのでした。

機関場には記念碑が建っています。その記念碑には、苦難の道をとった真崎浦の干拓と人々の努力と苦勞の歴史が刻まれています。

私たちは普段、当たり前のように見えている真崎浦の水田。この、のどかで、美しい景色の中には、約80年間の苦難の歴史と戦前東海村域の重大事件、そして今日まで続く人々の苦勞と涙の歴史が隠されているのです。

夏
7月～9月

July - September
MARUHAKU JOURNAL

まる博マルシェ

【会期】 令和4年7月23日～令和4年9月30日

【場所】 歴史と未来の交流館 展示室1

化石から探る東海海底300万年

化石―それは、悠久の歴史の証人。

私たちは日頃何気なくこの大地の上を歩いていますが、その下には長い年月をかけて降り積もった「地層」という歴史書、そしてその歴史を語る「化石」たちが眠っていることにはなかなか気づきません。本企画展では、東海村が平成初期から実施してきた自然調査の結果判明した太古の東海村の姿を、村内から発掘された化石から紐解きました。



はるか昔、東海村は海の底だった?!
東海村内で発掘された悠久の歴史の証人「化石」を手がかりに、海底300万年の旅へ!



1986年6月、村松層が分布する東海村川根の露頭ろとうで大きな発見がありました。それこそ、「トウカイクジラ」の発見です。

当時茨城県内で見つかったクジラの化石は、歯を持ち大きな獲物を積極的に捕食するハクジラのなかまのみで、ヒゲ板を持ちプランクトンなどを濾して食べるヒゲクジラのなかまの化石の発見は初めてのことでした。

帰ってきた！東海村時空マップ



令和3年度のオープニング展示で好評だった「東海村時空マップ」が帰ってきました！東海村の地図の上に乗ると、センサーで反応し、立った場所の昔の写真や子どもたちが描いた未来の絵が出てきたり、現在の道の動画がハイスピードで流れるなど、楽しい展示です。

【会期】 令和4年10月1日～令和4年11月30日
【場所】 歴史と未来の交流館 企画展示室

【会期】 令和4年10月1日~令和4年11月30日
【場所】 歴史と未来の交流館 展示室1

今年、東海村文化祭50回の記念の年、
ということで第二回から振り返る展示を行いました。
文化祭の黎明期から今日まで、どのような考えで人々は文化を創っていったのか、その思いを展示しました。

交流館 de 文化祭

東海村文化祭50回記念 —東海村の文化を創り上げた人々— ピタゴラどんぐり 石ころアート



芸術の秋! ということで、
様々なアート作品が生まれました!
その一部をご紹介します。



冬
12月~3月

December - February
MARUHAKU JOURNAL

企画展示

東海村の人物はにわ図鑑



【会期】 令和4年12月23日~令和5年3月5日

【場所】 歴史と未来の交流館 企画展示室

「東海村の人物はにわ図鑑」では、これまでの発掘調査などにより発見された「人物埴輪」を34点展示しました。埴輪とは、約1500年前に造られた古墳（有力者とその一族の墓）の周囲に立ち並べられた焼き物のことです。東海村は、茨城県内でも埴輪の出土例が多い地域です。とくに、近年の発掘調査では、精巧な作りの人物埴輪の発見が相次ぎ、「埴輪」はまさに本村を代表する文化財の一つと言えるでしょう。

埴輪の種類には、筒形をした「円筒埴輪」と、人や動物、家など様々に形づくられた「形象埴輪」があります。本展示の主役となる人物埴輪は、形象埴輪の一つですが、よく観察すると、それぞれの髪型や衣装などが違うことが分かります。こうした人物埴輪は、当時の王や彼らに付従した人々を造形することにより、古墳に伴う様々な儀礼の場面を示すものと考えられています。

今回の企画展では、まるで図鑑の1ページを切り取ったような展示構成を通して、個性豊かな人物埴輪の特徴を分かりやすく解説しました。

同時開催

東海村のハニワ総選挙 結果発表!!

23点の人物埴輪がエントリーした人気投票を行いました!
あなたの推し埴輪はどれ?!

その結果は次のページ!



エントリー数
全 23 点

東海村のハニワ総選挙 結果発表

投票数
1054票!!

第1位
(149票)



次は私の時代です！頑張ります！

No.14 ひがまづ 跪く男子埴輪
戸ノ内古墳出土 現高 36.9cm

第2位
(142票)



ワシこそが…キングオブ埴輪じゃ！

No.11 人物埴輪 県指定文化財
舟塚古墳群1号墳出土 現高 78.5cm

第3位
(101票)



イケメン
美男ですね！

No.12 三角巾形冠を被る武人埴輪
村指定文化財 戸ノ内古墳出土 現高 80.2cm

同時開催

はにわマルシェ

権現山古墳や別当山古墳の
模型も制作しました！



埴輪の塗り絵や埴輪カードを
つくったり、埴輪になりきって
写真もとれるコーナーも！



「化石から探る東海海底300万年」ができるまで

令和4年7月23日から同年9月30日まで、展示室1「まる博マルシェエリア」を使って開催された企画展「化石から探る東海海底300万年」。ありがたいことに、開幕初日から多くの方にご来館いただき、メディアにも取り上げていただくなどの反響があった。

今回のまる博ジャーナルでは、この企画展ができるまでにどのような舞台裏（バックステージ）があったのかをお届けしたい。

1 太古の東海村の姿を

この企画展は当初「化石マルシェ」と職員間では呼称していた。私たちが立つ東海村の大地の中に眠る幾千万年にもわたる物語を、村内から発掘された化石資料を基に紐解いていくというざっくりした方向性だけが決まっていて、そこから私の企画展づくりが始まった。

まず悩んだのが、太古の東海村の姿を紹介するための展



トウカイクジラとミンククジラの展示風景。

示といっても、具体的にどの時代をピックアップするかであった。東海村の大部分を占める那珂台地で確認できる地層は、最も古いもので約1100万年前のものであるが、その上に重なるのが約300万年前の地層、さらにその上に約

12万年前の粘土層や久慈川が形成した約4〜6万年前の砂礫層、そしてつべんに新しい時代の関東ローム層と、5つもの時代の異なる地層があった。さらに低地では海進の際に堆積した沖積層が確認できる。これらの地層の成り立ちすべてを解説できる展示をつくろうとすると、情報量が多すぎて結局見学が大変なだけの企画展になると考えたため、いずれかの時代、いずれかの地層に絞る必要があった。

時代の選定にあたり、それぞれの時代で展示する化石資料がどのような内容になるかを考えた。その中で、①1100万年前の深い海に息を潜めて暮らす底生生物たち、②300万年前の海底谷にできた深海生物たちのオアシス、③今にも飛び立ちそうなほど美しい12万年前の甲虫化石と彼らの暮らした豊かな森、の三案が有力候補として残った。いずれも考えた身としては捨てがたかったが、展示室1「水辺のムラ」エリアで約1100万年前の古環境展示を実施していたことと、近年話題になった約12万年前的甲虫化石についてより深い分析をしたかったことから、②案を採用すること

に決定した。また、②案を採用したには、ある化石資料にもう一度スポットライトを当てたいという思惑もあった。

2 村の名を冠した化石

1986年6月、東海村須和間の露頭で発見があった。当時近隣の学校で理科教師をしていた照沼義夫氏は、この日数人の調査チームと共に微化石の含まれる岩石サンプルを採取していた。その最中、照沼氏は崖からわずかに突き出した骨の一端を発見する。チームがドリルで崖を掘ってみると、だんだん大きな板のような骨の化石が出てきた。

掘り出されたのは、ヒゲクジラの上あごの先端の一部分であった。この知らせはたちどころに専門家の耳に入り、現地での化石の実見ののち、産出地である東海村の名を冠して「トウカイクジラ」と名付けられた。

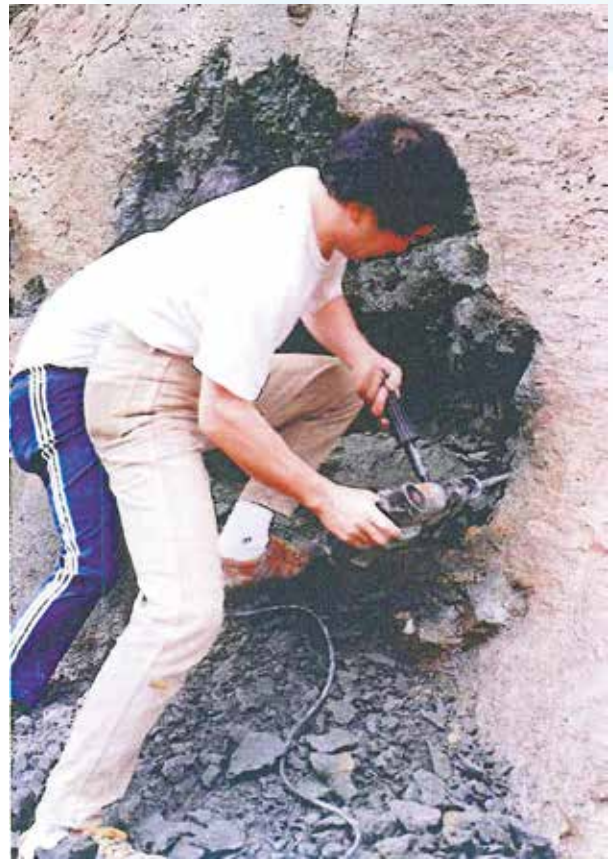
このニュースは当時の新聞でも複数紙に取り上げられ、大きな話題となった。というのも、当時茨城県内で発見されていたクジラ類の化石はいずれもハクジラ類（歯を持つクジラのこと）であり、ヒゲ板を持つヒゲクジラ類の化石の発見は初めてのことであったからだ。

このトウカイクジラが生きていた場所こそ、この企画展で取り上げる300万年前的東海村だったのである。

3 トウカイクジラを借りたい！

トウカイクジラは、その後ミュージアムパーク茨城県自然博物館に寄贈され、標本にとって最適な環境で保管されていた。しかしながら、それから30年以上、なかなか日の目を見る機会を訪れず、東海村民にもやがて忘れ去られていった。

しかしながら、私はこの東海村の名を冠した、村を代表する化石といっても過言ではないトウカイクジラの存在を当時の村民たちにどうしても思い出してほしかったし、東海村からクジラの化石が出てきた過去を知らない若い世代にも、新たにトウカイクジラに出会ってほしかった。絶対にミュージアムパークからトウカイクジラを借りたい！その一心で、私は電話帳に一縷の望みをかけて、とある



トウカイクジラを発掘する様子。

人物にコンタクトをとった。そして幸いにも、電話番号はビンゴ！トウカイクジラを発掘し、ミュージアムパーク茨城県自然博物館に寄贈した張本人である照沼義夫氏と連絡を取ることができた。

4 トウカイクジラを借りるには

照沼氏は私の話を大変真摯に聞いてくださり、私の思いに賛同してくださった。ご親切にも照沼氏からミュージアムパーク茨城県自然博物館の当時の担当学芸員であった国府田良樹氏に事情を説明してください、さらにそこから現在の担当学芸員の加藤太一氏にお話しただいて、具体的にトウカイクジラ借用の手続きが動き出すことになった。

まず、照沼氏・国府田氏・加藤氏立会

いの下、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の収蔵庫でトウカイクジラ本体を見つけた。昔からトウカイクジラに会いたかった身としては夢のファーストミートである。ミュージアムパーク茨城県自然博物館での管理がすばらしく、もうい箇所や化石になる過程で地層の重みに耐えきれず壊れたのであろう部分はすべて保護修復してあった。30年以上も大事に村の宝を守っていただいたことに感無量であった。

保護がしっかりしているとはいえ、展示や運搬の際の安全を期すためにトウカイクジラの状態を細かく記録していく。それぞれのパーツの長さ、幅、高さや厚み、力や振動に弱いところはないか、修復されている部分の状態はどうか……。一通り記録したところで、国府田氏に現生のヒゲクジラの頭部骨格標本を比較のために並べて展示することをご提案いただいた。ただこれだけ見てもクジラのどこだかよくわからないと感じたので、ミンククジラの頭部骨格標本を追加で貸し出していただけようように申請した。

実見が終わり交流館に戻ってすぐ、しっかりと段ボールを館内から大量に集めた。ミュージアムパーク茨城県自然博物館へトウカイクジラとミ

ンククジラを迎えに行くのに、安全に運搬できる箱を作るためである。とにかく標本そのものが大きく、既製品の段ボール箱や木箱では到底サイズが足りない。長さ120cm、幅90cm、高さ70cmほどの箱を2つ、3人がかりで補強に補強を繰り返して制作した。また、運送中の揺れなどで借用標本が破損しないよう、自宅にあったもう使わない綿入りの掛け布団とふわふわのブランケットを持参し、敷布団を作って箱の底に敷いた。掛け布団はどうやら高級寝具メーカーのものであったのだが、クジラを守る大役を担う布団に転身できるなら布団も本望だろう。こうして、クジラたちを交流館に迎える準備は整った。



トウカイクジラとミンククジラの運搬のために作った箱。人物の身長は約160cm。

5 トウカイクジラの凱旋

クジラたちの借用の日、私は頼れる先輩学芸員と二人で箱を大きなワゴン車に積み、ミュージアムパーク茨城県自然博物館へ向かった。現地では、借用前に改めて標本の状態を写真に赤字で細かくチェックする。返却の日に借用時と全く同じ状態で返却するための重要な作業だ。チェックが終わったら、チェックを入れた写真を複製して1枚はミュージアムパーク茨城県自然博物館に、1枚は交流館に保管する。

その後、クジラたちを専用の紙とクッションで丁寧に梱包していく。特にミンククジラの頭骨は、組みあがった頭の骨をまるまる梱包する必要があるが苦戦した。何しろ重いので、交流館の学芸員二



展示されているトウカイクジラ。(所蔵：ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

人だけでは到底持ち上げることすらかなわないと判断して、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の方にも手伝っていただいた。梱包して箱に収めたクジラたちを交流館に連れ帰るまで、この日は約6時間かかった。

こうして、30年以上もの時を経て、トウカイクジラは故郷に凱旋した。

6 深海生物たちのオアシス

ここまでトウカイクジラのことばかり述べたが、それ以上にこだわって展示したのが深海生物たちの化石である。トウカイクジラを語るために、トウカイクジラの暮らした海の環境を物語る化石たちを最大限に活かす必要があった。

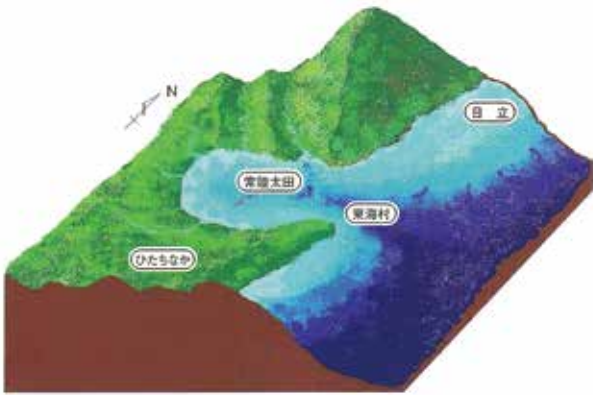
元来、深海というのは食物に乏しく、生き物の少ない場所である。陸上で日光の届かない場所では植物が光合成をできないために育たず、それを食べる草食動物やさらにそれを食べる肉食動物が暮らしていけないのと一緒で、海の中でも光の届かない深海は光合成をする植物プランクトンが生息できない。したがって、深海は総じて生息が難しい場所になりがちだ。

しかし、300万年前の東海村は例外で、日光が届かない深海であったにもかかわらず、たくさんの化石が産出している。当時多くの生き物たちが暮らすことを可能にしたものこそ、当時の陸地付近から東海村があった深海底まで伸びていた海底谷であった。

海底谷とは、海中での土砂や水の流れ

によってできた谷の地形のことである。当時の東海村周辺では海中で土砂崩れが頻繁に発生していたようで、そのことを示す堆積構造が地層にも残っている。このとき、土砂とともに浅海域から生き物たちの遺骸など、深海生物たちの食物になるものが多量に深海まで流れ込んでいたと考えられる。その結果、深海であるにも関わらず、たくさんの生き物が暮らすことができた。いわば「深海生物たちのオアシス」である。

このオアシスを再現するために、30年以上東海村の自然調査に関わっていらっしゃる菊池芳文氏にたくさんの化石標本を寄贈いただいた。いずれの化石も、菊池氏によって丁寧にクリーニングが施され、風化を防ぐ保護材が塗布されていた。



300万年前の東海村周辺の古地形図。現在の東海村があるあたりに海底谷が広がっている。



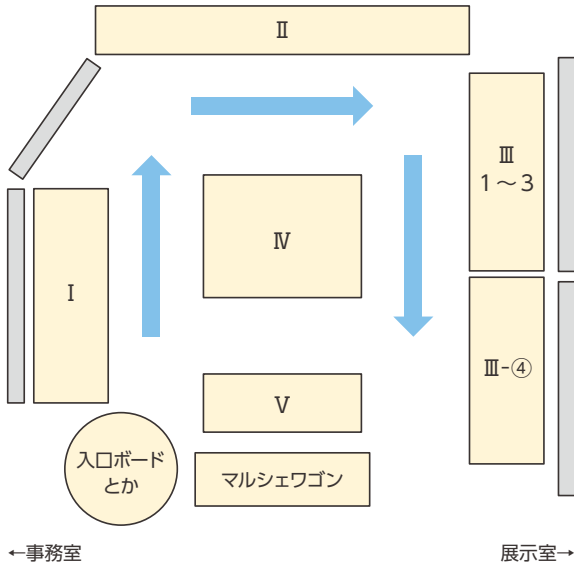
菊池氏から寄贈いただいた標本をレイアウトしている様子。

完璧な状態で資料を保管していただいたため、寄贈された標本はすぐに展示に供することができた。まさに、菊池氏の長年にわたる調査研究の成果が大輪の花を咲かせた瞬間であった。

7 さあ、展示をつくらう

借用したクジラたちと寄贈いただいた深海生物たちを一通り整理して、改めて展示の構成を再考した。ミンククジラを新たに展示に加えることになったため、初期の構想から展示ケースの配置やケース内の化石標本の配置が変わることになった。また、化石標本は基本的に底に凹凸があって安定しないため、それぞれの標本の大きさ・形・底の凹凸の形に合わせて台座をつくる。台座の大きさを加味して、展示ケース内の標本の並べ方も微調整が必要だった。

トウカイクジラの展示には当初、調光機能のある展示ケースを使用する予定だったが、ミンククジラという大物の展示ケースはミンククジラに譲った。代わりに、まさに村の宝！という意味も込めて、トウカイクジラは四面ガラス張りの行灯型展示ケースを使って展示することになった。ミンククジラは、やはりそのままケース内に置くと底面の部分に力がかかって破損するおそれがあったため、ベニヤ板でミンククジラを乗せるためだけの「お盆」を作り、底へ運送の箱に敷いていた布団を敷き詰めてから安置した。



初期の企画展レイアウト案。

展示全体の色遣いにもこだわった。解説パネルの基本の色味は、すっきりとまとめて見やすいように白、黒、青の三色で統一した。このうち青はパネルの写真の背景に使用したが、浅海の生き物の化石標本の時には明るい青、深海の生き物の化石標本の時には深い青というように、色の深さでその生物の生息環境を視覚的にイメージできるようにした。また、標本を安置する台座をくるむフェルトの色も、浅海の生き物には水色、深海の生き物には黒を使用した。本当は深海の生物の台座のフェルトには濃紺の色を使用したのだが、近年メーカー廃番になったとこのことで入手がかなわず、黒で代替した。

化石標本の台座を作りながら、同時に

図録と解説パネルの制作も進めた。それぞれの化石たちを活かすために、単に和名と学名のみを書くのではなく、標本一つ一つのパネルに記された生息場所などの情報を基にクイズを解く仕掛けを施したり、その標本にまつわるストーリーを記したり。「ふーん、この化石○○っていうんだ」と気軽に楽しみたい方も、さらに一歩踏み込んだ謎を知りたい方も楽しんでいただけることを頭に置きながら作文し、レイアウトを考えた。企画展の名称についても「化石マールシェ」という仮称から「化石から探る東海海底300万年」に正式に決定した。この名称はジュール・ヴェルヌの冒険小説「海底二万里」の語感を参考に考案した。

また、ポスターや図録のイラストは生物学的な矛盾のないよう細かくチェックした。ホホジロザメのエラは5本にして、カグラザメは6〜7頭身くらいに調整して、ウニの模様は五放射相称、等々非常に面倒な注文をいくつもつけて描いていただいた。特にサメのプロポーションに頭身概念を持ち込んだあたりは注文をつけながら申し訳なくなった。



「お盆」の上に安置されたミンククジラ。(所蔵:ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

小物やパネルがすべて出来上がると、いよいよ設営に入る。まずは解説パネルの高さを決めてボードに虫ピンで固定する。その後、展示ケースを定位置に固定してからケース内に化石たちを安置する、という順番である。事前にケース内の配置をある程度考えておいたのでここでは大きな修正をせずに済んだ。最後に、展示ケース内の調光等微調整をして、企画展「化石から探る東海海底300万年」は完成した。

8 生き物たちをよみがえらせる

こうして完成した企画展だったが、個人的には展示だけでは物足りないような感じがあった。というのも、これまで展示室1で実施していた企画展では、塗り絵や粘土への模様付け、どんぐりの見分けクイズなど、何かしら来場者が参加できる仕掛けが施されていたのに対して、この企画展ではそれがなかったからだ。そこで今度は、来場者がセルフで体験できるワークショップの考案に取り掛かった。

最初はトウカイクジラの体を学んでもらおうとクジラの骨格パズルを自作した。個人的にはそこそこのいいものができたと思っただけだが、大人にも難しいかもしれないという懸念がありボツになった。

次に考えたのが、古生物学の研究手法を体験できる貝合わせ的な教材だった。これも割とすぐにボツの判断を下した。手遊び的には楽しいかもしれないが、あまりにも企画展の中でそのような事項には触れていなかったからだ。

最後に思いついたのが、折り紙で化石になった生き物たちを「よみが

えらせる」というコンセプトだった。しかし、村立図書館の折り紙教本をすべて漁っても、クジラもサメもウニや貝も出てこない。困り果てた私は村内で折り紙の制作や普及活動を行っている作家の辻本京子氏に助けを求めた。

辻本氏は化石の写真や私のイメージを基に、計5点の折り紙を考案してくださった。さらに、折り図と完成品のサンプルを提供してくださった。元来折り紙な



深海生物たちのオアシスを表現した展示。



辻本氏考案のクジラの折り紙。

どの指先を細かく使う作業が得意でない私でもわかるようにご説明いただき、一通り私が解説できるように became したところで、会期中の8月から企画展内に折り紙のワークショップコーナーを設置することになった。

会期中は多くの方に化石の折り紙を楽しんでいただき、中には折り紙でよみがえらせたトウカイクジラを展示室内のホワイトボードにマグネットで貼ってにぎやかしてくださる方もいらっしゃった。

たくさんの方に会場いただいた企画展「化石から探る東海海底300万年」は、9月30日(金)に閉幕したが、今でも時折期間中のイベントや収蔵する化石標本等についてお問合せのご連絡をいた

だくことがある。その度に、これまでほとんど知られていなかった太古の東海村の姿について、村民の皆様をはじめ多くの方に興味を持っていただけたということではないかと時々マスクの下でニヤツクのである。

この企画展の開催にあたって、実に多くの方にお力添えいただいた。照沼義夫氏、国府田良樹氏、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の加藤太一氏には標本の借用にお力添えいただいた。菊池芳文氏には、郷土理解のために重要である化石標本をご寄贈いただき、展示構成について貴重なアドバイスをいただいた。辻本京子氏には、そのすばらしい才能で、机上の空論に終わってしまうかもしれないかった私の思い付きを形にさせていただいた。歴史と未来の交流館の安嶋隆博物館長、木梨夏野学芸員、林恵子学芸員、中泉雄太学芸員、高増慧学芸員、川崎大輔氏には、企画展制作にかかわる様々な側面でご助力いただいた。以上の方々に心から御礼申し上げます。

(学芸員 野田 美智子)

博物館長と歩く 植物観察会

まる博 山本美穂子
 立川鶴るみ子
 立川義雄
 鈴木さちよ
 安嶋隆

1 はじめに

博物館長と歩く植物観察会は「交流館周辺を歩いて植物を観察することで、身近な自然環境に親しみ郷土理解を深める。」ことを目標に、毎月第3土曜日の午前9時から11時に実施した。

2 各観察会のテーマ、日時、観察場所

令和4年

- ① サクラとスミレ 4月16日(土)
交流館周辺の道沿い(村松)
- ② 久慈川沿いの外来植物 5月21日(土)
なぎさの森(豊岡)
- ③ 海浜植物 6月18日(土) 村松海岸(村松)
- ④ 水田雑草 7月9日(土) 耕作中の水田(舟石川)
- ⑤ ため池の植物 8月20日(土) 阿漕ヶ浦(村松)
- ⑥ 虫こぶと常緑樹林 9月17日(土)
村松虚空蔵尊・大神宮(村松)
- ⑦ 土手斜面の植物 10月15日(土)
豊受皇大神宮付近(白方)
- ⑧ 身近な植物の実と種 11月19日(土)
石神城址公園(石神内宿)
- ⑨ 紅葉する樹木 12月17日(土) 雑木林(須和間)
- ⑩ 冬芽と樹皮で樹木を見分ける 1月21日(土)
雑木林(須和間)
- ⑪ 冬越しする植物 2月18日(土)
交流館周辺のあぜ道(村松)
- ⑫ ヒノキ林内のシダ植物の芽生え 3月18日(土)
ヒノキ林(船場)

※本文中の地図は電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成。

3 観察会で心がけたこと

第1は「植物に親しむ」こと。
 気になった植物や疑問に思ったことを聞いたり、お互いに教えあったり、あるいは雑談をしながら植物に親しむ。そして全員が参加者の1人であることを意識する。
 第2には「五感」を使う。

- ・目で観て、葉の形態や花の構造を観察してみる。
- ・噛んでみて、果実の味や茎の苦みを感じる。
- ・手の感触で葉や茎のざらつきや毛の生え方を感じる
- ・嗅いでみて、花や葉の臭いの違いを感じる。
- ・時には耳を澄まして、草や木のそよぐ音に注意してみる。

第3には植物を知ることが歴史、民俗などを学ぶことに通じている。
 植物名の由来や花のつくりを知ると先人たちの生活や人と植物の関わり合いが思い浮かぶ。先人は食用、薬草、生活用具など、植物を日常生活の中でごく普通に利用していた。野外での観察から先人の生活の知恵を学んでみよう。



① サクラとスミレ

期日：令和4年4月16日(土)
 コース：交流館↓交流館広場
 ↓神楽沢付近
 内容：代表的なサクラの種類を見分ける。さらに交流館広場の雑草を知る。



・ヤマザクラ 山桜

葉と花が同時に展開。若葉のうちは赤っぽいのが特徴。奈良県の「吉野の桜」といえばこのヤマザクラ。



・オオシマザクラ

大島桜

伊豆半島の沖に浮かぶ伊豆大島が由来。花が白く、大輪で、葉の中では芳香が強い。葉と花が同時に展開する。



・ソメイヨシノ 染井吉野

エドヒガンを母、オオシマザクラを父。「葉が出るより先に花が咲く」という点をエドヒガンから、「大輪で整った花」をオオシマザクラから受け継ぐ。全国のソメイヨシノはすべて、接ぎ木などによって増やされた「クローン」。

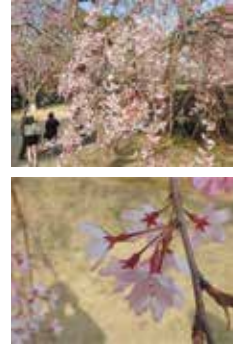
・エドヒガン(シダレザクラ)江戸彼岸(垂れ桜)

「江戸」と名前が付いているが栽培品種ではなく、基本野生種のひとつ。各地にある樹齢数百年〜千年超えの桜は、多くがこのエドヒガン。葉より先に花を咲かせる

交流館の主な雑草



ことと、山のようにこ
んもりとした樹形が特
徴。シダレザクラはエ
ドヒガンの品種のひと
つ。



・エゾヤマザクラ(オオヤマザクラ) 蝦夷山桜(大山桜)
北海道内ほぼ全域で見られる桜。葉と花がほぼ同時

に開く。北海道に多く
生育していることから
エゾヤマザクラ(蝦夷
山桜)。ヤマザクラに
比べ花や葉が大きいこ
とからオオヤマザクラ
(大山桜)ともいう。
村内のものは植栽されたもので、登録文化財に指定さ
れている。



②久慈川沿いの外来植物

期 日…令和4年5月21日(土)
コ ー ス…なぎきの森駐車場↓
久慈川の堤防沿い

内 容…堤防沿いに見られる外
来植物を中心に観察し
た。

特に目立った外来植物

ヤセウツボ…マメ科などの植物
の根に寄生して成長する植物。
原産は地中海沿岸のヨーロッパ
やアフリカ。根はほとんどなく、
地中の部分が膨らんでいる。こ
の膨らんだ部分を通じて他の植
物に寄生し、養分を吸い取って
いると考えられている。



ギンギン類…在来のギンギンの
他、ヨーロッパ原産のナガバギ
ンギン、エゾノギンギン、アレ
チギンギンなどがある。果実の形で見分けるが、お互い
の交雑種も存在しているため、区別は難しい。
アカバナユウゲシヨウ…原産地は北アメリカ南部から南
アメリカ。日本へは明治時代に観賞用として渡来。現在
は野生化し、本州の関東地方から西に分布。



主な植物

						
アカツメクサ	アカバナユウゲショウ	イタドリ	ウメガサソウ	カモガヤ	コウボウシバ	コウボウムギ
						
コマツヨイグサ	コメツツメクサ	スイバ	タチイヌノフグリ	ドクウツギ	ナガバモミジイチゴ	ナガミヒナゲシ
						
ネコハギ	ハマヒルガオ	ヒゲナガスズメノチャヒキ	ヒメコバンソウ	ブタナ	フユイチゴ	ヘラオオバコ
			<p>植物メモ アオスゲ、アオツツラフジ、アカバナユウゲショウ(外来)、アカマダシワ、アキクミ、イタドリ、イヌムギ(外来)、ウラジロチチコグサ(外来)、ウワミズサクラ、エゾノギシギシ(外来)、オオイヌノフグリ(外来)、オオキンケイギク(外来)、オオバコ、オニウシノケサ(外来)、カモガヤ(外来)、ガマズミ、ギシギシ、クスダマツメクサ(外来)、クズ、コウボウシバ、コウボウムギ、コヌカグサ(外来)、コマツヨイグサ(外来)、コメツツメクサ(外来)、シナダレスズメガヤ(外来)、シヤリンバイ(植栽)、シロツメクサ(外来)、シロバナアカツメクサ(外来)、スイバ、スギナ、スズメノチヤヒキ(外来)、セイタカアワダチソウ(外来)、タカサゴユリ(外来)、タチイヌノフグリ(外来)、チガヤ、テリハノイバラ、トベラ(植栽)、ドクウツギ、ナガバギシギシ(外来)、ナワシロイチゴ、ナワシログミ(植栽)、ニセキノヨウ(外来)、ヌスビトハギ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、ヒカゲスゲ、ヒゲナガスズメノチャヒキ(外来)、ヒメスイバ、ブタクサ(外来)、ヘクソクサズラ、ヘラオオバコ(外来)、ホシダ、ムササキ、マルバウツギ(植栽)、ムスカリ(外来)、ムラサキツメクサ(外来)、メドハギ、メマツヨイグサ(外来)、ヤツデ、ヤハズエンドウ</p>			
メドハギ	ヤセウツボ	ヤハズエンドウ				

③ 海浜植物

期日：令和4年6月18日(土)
 コース：村松コミセン↓(車で移動) ↓村松海岸
 内容：海浜植物には以下のような特徴があることを観察する。

- ・水が少なく、日差しが強い環境のため、葉が厚く、表面が固いものが多い。
 - ・風が強いので、背が高くならず、這うものも多い。
 - ・砂を掘ると、長い地下茎が砂の中を這っている。
- ・主な海浜植物

植物メモ
 ナミキンソウ(絶滅)、ハマゴウ、ハマニガナ、ネコノシタ、ウンラン、ハマヒルガオ、ハマナス(絶滅)、テリハノイバラ、シヤリンバイ、ハイネズ、ハマエンドウ、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマアオスゲ、テンキクサ、オニシバ、ケカモノハシ、ハマエノコログサ、トベラ



クロマツ林との境 (フェンス)



海岸全景



凹地にできた湿地



ケカモノハシの群落

主な植物



④水田雑草

期日…令和4年7月9日(出)

コース…交流館↓(車で移動) ↓水田

内容…かつての水田雑草は絶滅危惧植物に戦後の機械化や除草剤の普及による稲作技術の変遷に伴い、水田雑草群落も大きく遷移した。近年の減少傾向が著しく、いわゆる絶滅危惧(レッドリスト)に指定されている種類も少なくない。

耕作水田で見られる絶滅危惧種(環境庁2000)を抽出すると、ムサシモ、スズメハコベ、スブタ、アギナシなど40種以上となる。デンジソウやスブタなどは、かつては全国の水田に普通に見られた害草種であった。しかし、現在でも「勝ち組」となっているコナギなどの随伴種とは異なり、稲作技術の発展による急激な耕作環境の変化に適応しきれず減少していると考えられる。

我が国の耕作水田に生育する絶滅危惧種 国レベル

準絶滅危惧…コイヌガラシ、ウスゲ
 チヨウジタデ、タチモ、ミゾコウジ
 ユ、カワヂシャ、アギナシなど
 絶滅危惧ⅠA類…ナンゴクデンジソ
 ウ、ホザキキカシグサ、アズミノヘ
 ラオモダカ、ムサシモ、イトイバラ
 毛など

絶滅危惧ⅠB類…シナミズニラ、ア
 ゼオトギリ、ミズキカシグサ、スズ
 メハコベ、サガミトリゲモ、クロホ
 シクサなど

絶滅危惧Ⅱ類…ミズニラ、デンジソ
 ウ、サンシヨウモ、アカウキクサ、
 ミズマツバ、ヒメシロアサザ、コキ
 クモ、ヒメタヌキモ、マルバオモダ
 カ、スブタ、ミズアオイ、ミズタカ
 モジなど

今回は村内で水田雑草が残ってい
 る水田を観察した。



ホシクサなどの雑草が群生



舟石川の水田



植物メモ
 アオキ、アオツラフシ、アカザ、
 アキノエノコロ、アキノゲシ、
 アズマザサ、アマチャヅル、アメ
 リカセンダングサ 外来、アメリカ
 カイヌホオズキ 外来、アレチヌ
 シビトハギ(外来)、イボタンノキ、
 ウシクダ、ウツシソ、イボタンノキ、
 エノキグサ、オオアレチチ
 ノギク(外来)、オオバヤシヤブシ、
 オヒシバ、カスノコグサ、カナム
 グラ、クワイモ(外来)、キツタ、
 クワ、ゴキツル、コセンダングサ
 (外来)、サンシヨウ、シヨロ(逸
 出)、シヨウブ、ジヨウロウスゲ(絶
 滅危惧)、セイタカハコグサ(外
 来)、セリ、タチヤナギ、タフノキ、
 タラノキ、チゴサ、チヨウジ
 タ、ツタウルシ、ツクサ、ツル
 マメ、トウネズミモチ(逸)、ヌ
 マトラノオ、ヌルデ、ハキダメギク
 (外来)、ハンノキ、ヒカゲイノ
 コツチ、ヒサカキ、ヒメガマ、ヒ
 メヒラテツキ、ヒメジョオン(外
 来)、ヒメムカシヨモギ(外来)、
 ヘクソカズラ、ヘラオオバコ(外
 来)、ホウキグサ(外来)、マツカサ
 スキ、マムコシリヌグイ、ヤムシ
 ミズヒキ、ミソバキ、ミツバアケビ、
 メヒシバ、メマツヨイグサ(外来)、
 モチノキ(逸出)、モミジイチゴ、
 ヤハズクサ、ヤブカラシ、ヤブマ
 メ、ヤブラン、ヤマアワ、ヤマ
 イモ、ユウガキク、ヨウシュヤマ
 ゴボウ(外来)、ヨシ

⑤ため池の植物（阿漕ヶ浦）

期日…令和4年8月20日(土)

コース…交流館↓(車で移動) ↓阿漕ヶ浦

内容…東海村には阿漕ヶ浦、内宿溜、前谷溜、押延溜など7つのため池があり、最も大きいため池は村松の阿漕ヶ浦である。

水面には植栽されたハスが広がり、水際にはウキヤガラが見られます。また、砂地にはハマヒルガオ、コウボウシバなどの海浜植物が生育している。ヨシに混じってジヨウロウスゲやゴキヅルが見られる。タチヤナギの大木も目立ち、周囲はタブノキやシロダモ、スダジイなどの常緑樹が広がっている。



常緑樹林



ウキヤガラの群生



ミソハギ



ゴキヅル



ウキヤガラ



ジヨウロウスゲ

植物メモ
アオキ、アオツラブシ、アカザ、アキノエノコロ、アキノゲシ、アズマザサ、アマチャヅル、アメリカセンダングサ(外来)、アメリカイヌホオズキ(外来)、アレチヌスビトハギ(外来)、イボタノキ、ウシクダ、ウシノシツペイ、エゴキ、エノキグサ、オオアレチノギク(外来)、オオバヤシキブシ、オヒシバ、カズノコグサ、カナムグラ、クイモ(外来)、キツタクラ、ゴキヅル、コセンダングサ(外来)、サンショウ、ジヨウロウスゲ、セイタカハハコグサ外(外来)、セリ、タチヤナギ、タブノキ、タラノキ、チゴザサ、チヨウジタデ、ツタウルシ、ツユクサ、ツルマメ、トウネズミモチ(外来)、ヌメトランノオ、ヌルデ、ハキダメギク(外来)、ハンノキ、ヒカゲイノコツチ、ヒサカキ、ヒメガマ、ヒメヒラテツツキ、ヒメジョオン(外来)、ヒメムカンヨモギ(外来)、ヘクソクサ、ヘラオオバコ(外来)、ホウキギク、マコソシラヌグイ、マユミ、ミスヒギ、ミソハギ、ミツバアケビ、メヒシバ、メマツヨイグサ(外来)、モチノキ逸、モミジイチゴ、ヤハズソウ、ヤブカラシ、ヤブマメ、ヤブラン、ヤマアワ、ヤマノイモ、ユウガギク、ヨウシュヤマゴボウ(外来)

⑥虫こぶと常緑樹林の観察（村松虚空蔵尊付近）

期日…令和4年9月17日(土)

コース…村松虚空蔵尊駐車場↓

内容…虫こぶとは

アブラムシやハチなどの昆虫その他の小動物の寄生によって刺激され、葉・茎・根などの組織が異常に発達してこぶ状あるいは特殊な形状となったもの。形は寄生者の種類によって決まっている。

虫こぶは組織中にタンニンを含み、ヌルデのようにタンニン資源として利用されるものもあるが、一般に作物や果樹にできた虫こぶはクリタマバチのように着花を妨げ、害を与えることが多い。

日本にいる3万種ぐらいの昆虫のうち、約1420種が虫こぶをつくる。日本にある4600種ぐらいの植物のうち、約570種に虫こぶが知られている。

植物メモ
アカガシ、アカマツ、アレチヌスビトハギ、イチョウ、イノコツチ、エノキ、エノコログサ、オオバタンキリマメ、オオフタムグラ、ガマズミ、キッコウハグマ、キツタ、クワ、コセンダングサ、サルスベリ、シナダレスズメガヤシラカシ、シラカシ、スダジイ、スダジイ、センニンソウ、ツルグミ、テイカカズラ、トウコマツナギ、ドクウツギ、トベラ、トランオシダ、ナワシロイグミ、ニセアカシア、ヌルデ、ハス、ヒイラギ、ヒメヤブラン、メクソイグサ、メドハギ、メリケンカルカヤ、モッコク、モッコク、モミ、ヤダケ、ヤブコウジ、ヤブコウジ、ヤマウルシ、ヤマナラシ、ヤマハギ、ヤマモモ、ユズリハ



村松虚空蔵尊と大神宮付近の常緑樹林

主な虫こぶ



アカソの花

アカソミトゲフシ

イノズチクキマルズイフシ

カシハイボフシ

ガマズミミケフシ

キクタンニギクの虫こぶ

クサイチゴの虫こぶ



クヌギエダイガフシ クマイチゴハクボミケフシ シロダモハコブシフシ シロダモハコブフシ ツリフネソウの花 ツリフネソウハオレタゴフシ ニガイチゴの虫こぶ



ナルデミミフシ ナルデミミフシの中 ノブドウによく似たエビツル ノブドウミフクレフシ キイチゴハケフシ ヤナギシントメハナガタフシ ヨモギクキワタフシ

植物メモ
 アオキ、アカガシ、ムラサキツメクサ(アカツメクサ)、アカネ、アキノウ
 ナギツカミ、アキノキリンソウ、アキノノゲシ、アキノタムラソウ、アメリ
 カイヌホオズキ、アメリカセンダングサ、イタドリ、イヌガヤ、イヌスギナ、
 ツクバトリカブト、イヌタデ、イヌワラビ、イワニガナ、ウド、エゴノキ
 エノキグサ、エビツル、オオイヌフクリ、オオニシキソウ、オオバコ、オ
 ガルカヤ、オギ、オニタビラコ、オニドコロ、オニノゲシ、オヒシバ、オ
 クトラノオ、カキドオシ、カゼクサ、カタバミ、ガマズミ、カラスウリ、ク
 イモ、キツタ、キブシ、キンエンコロ、クサギ、クサソテツクサ、マダモ(クワ)
 ケヤキ、ゲンノシヨウコ、コメガヤツリ、コセンダングサ、コバギボウシ、
 サトメシダ、サルトリイバラ、サウビヨドリ、シナダレスズメガヤ、シヤガ
 シロザ、シロダモ、ススキ、ヌスビトハギ、セイヤカアワダチソウ、セイヨウタ
 チポポ、セキショウ、セリ、ゼンマイ、タカトウダイ、タネツケバナ、タブノキ
 チガヤ、チカラシバ、ツタウルシ、ソメイヨシノ、ツクサ、ツリカネ(ツギ)、
 ツリフネソウ、ツルボ、テイカカズ、ドクダミ、トダシバ、ツタ(ナツツグ)、
 ナワシロイチゴ、ヌスビトハギ、ヌトラノオ、ネズミノオ、ノイバラ、ノコ
 ンギク、ノダケ、ノハラアザミ、ノブドウ、ハキタメキク、ハナタデ、ハリ
 ガネウラボ、ハンノキ、イノコヅチ(イカゲイノコヅチ)、ヒサカキヒメシダ、
 ヒメジョオン、フジ、フタナ、ヘクソカズラ、ベニシダ、ヘラオオバコ、マダ
 ケ、ミズヒキ、ミゾシダ、ミソハギ、ミツバアケビ、ムサシナブキ、メシバ
 メマツヨイクサ、メリケンカルカヤ、モウソウチク、モミジイチゴ、ヤブツバ
 ヤナギイノコヅチ、ヤブカラシ(ヤブガラシ)、ヤブカンゾウ、ヤブツバキ
 ヤブメ、ヤマイ、ヤマノイモ、ヤマハギ、ユウガキク、ヨウシユヤコボウ
 ヨシ、ヨモギ、ワレモコウ。



イネ科植物が目立つ



湿地性の植物が目立つ



タブノキ林

⑦土手斜面の植物 (豊受皇大神宮付近)
 期日…令和4年10月15日(土)
 コース…豊受皇大神宮駐車場↓
 付近の土手や斜面
 内容…土手は水害などの被害
 を防ぐために土を盛っ
 て築いた堤で、堤防と
 も呼ばれることがあ
 る。このような場所
 は常緑樹(タブノキ林)
 や草原が目立ち、多く
 の種類の植物が生育し
 ている。



主な植物



アカガシ

アカツメクサ

アキノウナギツカミ

アキノタムラソウ

アキノノゲシ

アメリカイヌホオズキ

アメリカセンダングサ



アメリカカタカサブロウ イタドリ イヌスギナ イヌタデ イヌワラビ エノキグサ オオバコ



オガルカヤ オギ オニドコロ オニノゲシ オヒシバ カキドオシ カゼクサ



カタバミ カラスウリ キクイモ キツタ キブシ (雌株) キブシ (来年の花芽) キンエンコロ



クサソテツ



クズ



クワ



ゲンノショウコ



コウヤワラビ



コゴメガヤツリ



コスズメガヤ



コセندانゲサ



コバギボウシ



サトメシダ



サルトリイバラ



サウヒヨドリ



シナダレスズメガヤ



シロザ



ススキ



セイタカアワダチソウ



セイヨウタンポポ



セキショウ



セリ



ゼンマイ



タカトウダイ



タカトウダイ花



タブノキ



チカラシバ



ツクバトリカブト



ツタウルシ



ツユクサ



ツリガネニンジン



ツリフネソウ



ツルボ



テイカカズラ



ドクダミ



トダシバ



ナツツタ



ナワシロイチゴ



ヌスビトハギ



ネズミノオ



ノイバラ



ノコンギク



ノコンギク (冠毛が長い)



ノハラアザミ



ノブドウ



ハキダメギク



ハナタデ



ハリガネワラビ



ハンノキ



ヒカゲイノコヅチ



ヒメシダ



ヒメジョオン



ヒメムカシヨモギ



ブタナ



ヘクソカズラ



ベニシダ



ヘラオオバコ



ミズヒキ



ミゾシダ



ミゾソバ



ミゾソバ



ミソハギ



ミツバアケビ



ムサシアブミ



メヒシバ



メリケンカルカヤ



モミジイチゴ



ヤツデ



ヤブカンゾウ



ヤブツバキ



ヤブマメ



ヤマノイモ



ヤマハギ



ヤマハギ



ユウガギク (冠毛がない)



ユウガギク



ヨウシュヤマゴボウ



ヨシ



ヨモギ



ワレモコウ

⑧ 身近な植物の実とタネ・種

期 日…令和4年11月19日(出)

コース…石神城跡公園駐車場↓石神城跡公園および周辺の道沿い

内容…樹木や層本塁の種子や果実を観察。石神城跡公園はスギ林、常緑樹林、草原、水田など、変化に富んだ植生（生育している植物の集団）が残されている。秋には、紅葉とともに多種類の果実が観察できる。



常緑樹林



草原



スギ林



主な種子



(シドキ) ヤマアザミ



アオキ



アオツバラフジ



アキノウナギツカミ



イヌタデ



エノキ



カラスウリ



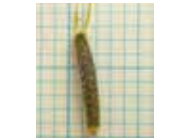
キツタ



クサギ



ケチヂミザサ



コセンダングサ



コナラ



コブシ



サネカズラ



サルスベリ



サルトリイバラ



シモツケ



シラカシ



スギ



セイトカアワダチソウ



ツリバナ



ムカキビ



ノイバラ



ヒガゲイノコツチ



ヒノキ



ヘクソカズラ



ミズヒキ



ミゾソバ

⑨ 紅葉する樹木

期 日…令和4年12月17日(出)

コース…交流館↓須和間の雑木林
内容…紅葉のしくみを知り、雑木林ではどのような樹木があるのかを知る。
また、林は、高木層、亜高木層、低木層、草本層の4つの階層があることを知る。



紅葉する樹木



- ① イロハモミジ
- ② ウワミズザクラ
- ③ コナラ
- ④ クリ
- ⑤ クヌギ
- ⑥ ウリカエデ
- ⑦ ガマズミ
- ⑧ ツタウルシ
- ⑨ サンショウ
- ⑩ コゴメウツギ
- ⑪ ナツツタ
- ⑫ ムラサキシキブ
- ⑬ パッコヤナギ
- ⑭ メギ
- ⑮ アオハダ
- ⑯ エノキ
- ⑰ ヤマコウバシ
- ⑱ アカシデ
- ⑲ イヌシデ
- ⑳ ウメモドキ
- ㉑ コマユミ
- ㉒ エゴノキ
- ㉓ ヌルデ
- ㉔ ヤマウルシ
- ㉕ カマツカ
- ㉖ ヤマツツジ
- ㉗ ホオノキ
- ㉘ ヤマウグイスカグラ
- ㉙ エビヅル
- ㉚ カキノキ
- ㉛ ヤマグワ
- ㉜ アカメガシワ

植物メモ
 アカマツ、アズマザサ、アズマネザサ、アズマネザサ、イカリソウ、イナカガク、イヌシデ、イヌワラビ、イボタノキ、ウメモドキ、ウリカエデ、エゴノキ、オオキンケイギク、オオバタンキリマメ、オニシバリ、ガマズミ、カラスウリ、カラスザンショウ、キバナアキギリ、コウヤボウキ、コメウツギ、コナラ、コノテガシワ、コマユミ、サルトリイバラ、ジャノヒゲ、シュラン、スギ、タガネソウ、トウカエデ、ヌルデ、ネズミモチ、ノガリヤス、フジ、ベニシダ、ホオノキ、マダケ、マンリョウ、ミゾシダ、ミツバアケビ、ムラサキシキブ、メギ、ヤブコウジ、ヤブラン、ヤマウグイスカグラ、ヤマウルシ、ヤマコウバシ

⑩ 冬芽と樹皮で樹木を見分ける

期日…令和5年1月21日(土)

コース…交流館↓須和間の雑木林

内容…雑木林には、林の階層構造、落

葉のしくみ、四季の変化、林内の植物、冬芽と樹皮の観察など多くのことが学べる場所である。

今回は樹皮と冬芽から樹木の種類を見分ける観察を行った。



樹皮…樹木の表皮。最外層にある死んだ組織の集まり。成長とともに外側に押し出され、内部と遮断されて、やがてはげ落ちる。

冬芽…春に芽吹き、活動を開始するために準備されたのが冬芽。裸芽(ムラサキシキブ)、鱗芽(多数あり)、隠芽(ネムノキ)の3種類がある。



冬の雑木林



裸芽 (ムラサキシキブ)



鱗芽 (コゴメウツギ)



隠芽 (ネムノキ)

葉痕…秋に葉を落とした落葉樹の葉のついていた跡(痕)の模様が残り、種類ごとに個性的。



タラノキの葉痕

樹皮と冬芽



アオハダ樹皮

アオハダ冬芽

アカシデ樹皮

アカシデ冬芽

アジサイ樹皮

アジサイ冬芽

イチジク樹皮

イチジク冬芽

イチヨウ

イチヨウ樹皮

イヌシデ樹皮

イヌシデ冬芽

ウメモドキ樹皮

ウメモドキ冬芽

ウメ樹皮

ウメ冬芽



⑪冬越しする植物

期日…令和5年2月18日(土)

コース…交流館→水田のあぜ道

内容…あぜ道沿いに見られるロゼット葉をつける植物の観察。

ロゼット葉で冬越しする植物を観察する。休耕地で目立つハンノキの生態も観察した。



冬のあぜ道 (用水路と雑木林)



冬のあぜ道 (休耕地)



ハンノキの花

水辺を好み、低地の湿地や水田のあぜなどに見られ、早春に尾状に垂れ下がった花をつける。樹皮や球果からタンニンや染料が採られる。

花期は冬の11〜2月頃。雌雄同株で、雄花穂は枝先に数個、黒褐色の円柱形で尾状に垂れ下がる。雌花穂は紅紫色を帯び、雄花穂の下部の葉腋に数個つける。

実は松かさ状で数個ずつつき、10月頃熟すと球果状になり、松かさには似た小さな実が翌年の春まで残る。



植物メモ

アスマザサ、アスマネザサ、イヌムギ、ウツギ、エゾノギシギシ、オオアレチノギク、オオイヌノフグリ、オオキンケイギク、オニウシノケグサ、オニウシノケグサ、オニタヒラコ、オニノゲシ、オランダミミナグサ、キュウリグサ、コセンダングサ、サンゴジユ、スイバ、ススキ、セイタカアワダチソウ、ソメイヨシノ、タコノアシ、タチイヌノフグリ、ナガバヤブソテツ、ナスナ、ニッケイ、ノゲシ、ノビル、ノボロギク、ハルジオン、ヒナゲシ、ヒメオドリコソウ、ヒメガマ、ヘラオオバコ、ホトケノザ、マツカサススキ、メマツヨイグサ、ヤハズエンドウ、ヤブソテツ、ヤブツバキ、ヨシ、ヨモギ

主な植物



⑫ ヒノキ林内のシダ植物の芽生え

期 日…博物館長講座 令和5年3月18日(土)

※雨のため室内研修に変更

予定したコース…交流館↓船場のヒノキ林
内容…代表的なシダ植物を見分ける。

シダ植物の魅力

花が咲かないシダ植物は庭先、道沿い、林の周辺や林内、草原などあらゆる場所に生育しています。

花が好きな人でも、シダはちょっと…。種類の区別が難しいので…。と敬遠することが多いようです。

しかし、次のようなシダ植物特有の見分け方を覚えるだけで、シダって楽しい」と植物観察に変化ができるかも知れません。

- 1 全体の形：葉の切れ込み方(羽片)や色合い。
- 2 胞子のう…葉の裏にあり、中に胞子が入っている。虫がついてると間違えられる。
- 3 りん片…葉柄や中軸にあるうるこ状のもの。

ヒノキ林はシダ植物の宝庫



林内の植物が貧弱(船場)



シダ植物などが豊富な林内(船場)



ベニシダの例



主なシダ植物



アイアスカイノデ



イワガネソウ



オクマワラビ



トラノオシダ



ナガバブソテツ



ヒカゲノカズラ



フノハナワラビ



ベニシダ



ホンバナライシダ



バブソテツ



ヤマイタチシダ



リョウメンシダ

室内研修 絶滅危惧植物の生育する村内の環境を紹介。



オオアカウキクサの生育地



オオウメガサソウの生育地



カザグルマの生育地



キキョウやオミナエシの生育地



コウガイモが群生する新川



オオノリやワレモコが生育する斜面



ガゼンソウの生育地



サワギキョウなどの生育地



サワンロギクやカザグルマの生育地



タヌキランの生育地



ツルカノソウやウバユリの生育地



トンボソウの生育地



ヌマガヤツリやエソウキガラの群生地



ノグサの生育地



ヒカゲノカズラの生育地



ヒメガゼンソウの生育地



ホシクサやミズマツバの生育地



マルバノサウトウガラシの生育地



モウセンゴケの生育地



ヤマラッキョウの生育地



以前のゼンテイカの生育地



原研内のスカシユリ



絶滅危惧植物が多い阿漕ヶ浦



用水路に群生するナガエミク

講演録

考古学者 茂木雅博と東海村 (4月17日開催)

茂木 雅博 (考古学者・茨城大学名誉教授)

ただいまご紹介のありました茂木でございます。本日はこんなに多くの方にお集りいただきありがとうございます。今日は「私と東海村」ということで、私がこの村でどれだけ考古学的調査を行ったかという資料を用意しましたので、それを見て頂きながらその内容と成果を整理して見たいと思います。私がこの村に最初に足を踏み入れたのは1964年(昭和39)の8月でした。それは権現山古墳の見学と舟塚古墳出土の人物埴輪を調査するためでした。

と三代の村長に大変可愛がっていただき、沢山の研究成果を上げる事が出来ましたことを大変感謝しております。私が東海村で最初に行った考古学的発掘調査は1967年8月に真崎の十文字から勝田市への計画道路を作るために削り取られることになった須和間古墳群でした。県内研究者で組織された茨城県考古学会が調査を担当する事となり、役員であった私も東京から参加しました。

東海村は村松村と石神村が合併して生まれたもので、文化財保護行政は村松村長であった川崎氏が村松村時代に村内遺跡の悉皆調査を実施し、一部発掘調査もして『常陸國村松村の古代遺蹟』を刊

行された事に始まります。この書に記録された遺跡にはすべて高さ2m程の白い木製の標柱が建てられました。私が1964年に権現山古墳を見学に訪れた時に案内してくださったのは、先年お亡くなりになりました須藤佐武さんで、標柱を建てた事を懐かしく話してくださいました。この仕事は全国的にも大変貴重な作業でした。私の知る限りでは昭和40年代に滋賀県下の遺跡を見学し、当時県の文化財保護を担当されていた水野正好さんから安土瓢箪山古墳を案内された時に「県民に遺跡の位置を明かにするために木柱を建てた」と話を伺ったことがあります。

また、その以来このような素晴らしい「歴史と未来の交流館」が完成するまで、川崎義彦村長、須藤富雄村長、村上達也村長

私は50年近く東海村の考古学的遺跡と

東海村と私 2022年4月17日 東海村歴史と未来の交流館

調査	内容
1	1964年8月 東海村内古墳見学 (市毛勲氏と)
2	1967年8月 須和間古墳群発掘調査 (茨城考古学会)
3	1969年8月 須和間古墳群発掘調査第2次 (自費)
4	1970年7月 須和間古墳群発掘調査第3次 (自費)
5	1971年7月 須和間古墳群発掘調査第4次 (文部省科学研究費)
6	1976年3月 須和間古墳群第12号墳発掘調査 (写真・森昭)
7	1976年8月 小澤野遺跡発掘調査 (写真・森昭)
8	1976年10月 部原地区遺跡分布調査
9	1977年2~3月 小澤野遺跡出土品整理 (写真・森昭)
10	1977年6月 小澤野地区旧地主聞き取り調査
11	1977年7月 権現山古墳墳丘測量調査 (東京電機大学高校)
12	1977年10月 正木湖周辺遺跡分布調査
13	1978年2月 部原東遺跡発掘調査 (写真・森昭)
14	1978年5月 東海村古墳調査 (石野博信・菅文則・榎本誠一)
15	1982年1月 東海村二本松古墳発掘調査見学 (教育財団調査) 見学
16	1982年4月 東海村部原遺跡出土品整理 (写真・森昭)
17	1983年5月 馬頭根窠跡踏査
18	1983年7月 馬頭根窠跡発掘調査 (田辺昭三博士、写真・牛島茂)
19	1983年12月 東海村遺跡分布調査第1次
20	1984年3月 東海村遺跡分布調査第2次
21	1984年12月 東海村遺跡分布調査第3次
22	1985年3月 東海村遺跡分布調査第4次 (別当山古墳測量)
23	1986年1月 釜付遺跡調査見学 (井上義安調査)
24	1988年1月 下ノ諏訪横穴群調査 (斎藤忠士案内)
25	1989年6月 部原古墳踏査
26	1989年7月 部原古墳発掘調査 (写真・森昭)
27	1989年10月 石神城発掘調査見学 (日本考古学研究所)
28	1990年3月 部原古墳出土品整理 (写真・森昭)
29	1990年10月 石神城発掘調査見学 (日本考古学研究所)
30	1991年9月 白方古墳群発掘調査第1次 (空撮・森昭)
31	1992年12月 白方古墳群出土品整理
32	1993年7~9月 下の諏訪南遺跡発掘調査 (空撮・森昭)
33	1994年7月 銭塚古墳・白方古墳群発掘調査第2次
34	1997年1月 須和間地区宅地開発地踏査
35	1998年9月 石神外宿試掘調査
36	1999年3月 東海村内遺跡保存度調査
37	1999年8月 茅山古墳発掘調査第1次 (森昭さん逝去)
38	1999年10月 権現山古墳立合発掘調査
39	2000年3月 御所内窠跡発掘調査
40	2000年5月 真崎古墳群測量調査第1次
41	2000年7月 江中子遺跡発掘調査
42	2000年10月 勝木田遺跡発掘調査
43	2001年10月 真崎古墳群測量調査第2次
44	2002年1月 平原遺跡現状視察
45	2002年3月 茅山古墳発掘調査第2次
46	2002年4月 茅山古墳出土土輪水洗い
47	2003年1月 荒谷台遺跡発掘調査見学 (日本考古学研究所)
48	2004年2月 石神小学校校舎基礎鉄筋除去立合観察
49	2004年2月 茅山古墳発掘調査第3次
50	2004年6月 下ノ諏訪横穴群視察
51	2004年8月 下ノ諏訪1号墳発掘調査
52	2004年8月 茅山古墳出土品整理
53	2004年9月 中道前6号墳発掘調査
54	2005年1月 茅山古墳出土品整理
55	2005年8月 真崎1号墳・5号墳発掘調査 (甘粕健氏指導)
56	2007年3月 真崎古墳群視察 (環境審議会)
57	2007年4月 白方古墳群視察 (環境審議会)

発掘調査報告書

1	1969年3月 『茨城県那珂郡東海村須和間古墳群発掘調査報告書』茨城県教育委員会。
2	1970年12月 『茨城県須和間遺跡の調査—川崎純徳氏の批判に答えて—』『考古学ジャーナル』51号 ニューサイエンス社。
3	1972年9月 『常陸須和間遺跡』雄山閣出版。
4	1977年3月 『東海村小澤野遺跡調査概略報』東海村教育委員会。
5	1978年6月 『小澤野—茨城県東海村須和間地区における古代集落の研究—』東海村教育委員会。
6	1979年2月 『茨城県須和間遺跡』『日本考古学年報 21・22・23 合併号』日本考古学協会。
7	1982年3月 『常陸馬頭根窠跡』東海村教育委員会。
8	1982年12月 『常陸部原遺跡』東海村教育委員会。
9	1987年3月 『東海村の遺跡』東海村教育委員会。
10	1989年9月 『須和間12号墳の調査』東海村教育委員会。
11	1990年9月 『常陸部原古墳』東海村教育委員会。
12	1993年3月 『常陸白方古墳群』東海村教育委員会。
13	1994年3月 『常陸下ノ諏訪南遺跡』東海村教育委員会。
14	1996年3月 『常陸銭塚・白方古墳群』東海村教育委員会。
15	1999年3月 『東海村石神外宿浄水場配水設備整備事業に伴う確認調査報告』東海村教育委員会。
16	2001年3月 『常陸御所内窠跡』東海村教育委員会。
17	2001年3月 『江中子遺跡』東海村教育委員会。
18	2001年8月 『常陸権現山古墳調査報告』東海村教育委員会。
19	2002年3月 『常陸真崎古墳群墳丘測量調査報告』東海村教育委員会。
20	2004年12月 『常陸下ノ諏訪1号墳の調査』東海村教育委員会。
21	2006年3月 『常陸茅山古墳』東海村教育委員会。
22	2006年10月 『常陸真崎古墳群』東海村教育委員会。

著作・論文

1	1987年9月 『日本古代の遺跡36—茨城—』保育社。
2	1994年12月 『古墳時代寿陵の研究』(博士論文) 雄山閣。
3	2007年2月 『常陸の古墳』同成社。
4	2009年6月 『日本古代の大王陵園と国造墓園』『齋藤超先生記念文集・学術巻—』北京大学考古文博学院・中国国家博物館 文物出版社。
5	2015年12月 『箱式石椁』同成社。
6	2022年9月? 『天皇陵古墳から大王陵園へ』京都・柳原出版社。
7	2022年12月? 『紡錘車』同成社。

各種委員

1	東海村文化財保護審議会委員 (1983年4月~2007年3月)
2	東海村環境審議会委員 (1999年1月~2008年11月)
3	東海村歴史資料館検討委員会委員 (2002年2月~2003年3月)

表彰

1	1982年4月 合併三十周年記念に当たり文化財保護で表彰 (村長須藤富雄)
2	2005年6月 発足五十周年記念に当たり文化財保護で表彰 (村長村上達也)
3	2021年7月 村史歴史と未来の交流館開館に当たり文化財の普及・啓蒙により特別労賞 (村長山田修)

この伝統は東海村の文化財保護行政の原点で私は東海村教育委員会の素晴らしい優秀な文化財保護担当者に助けられて、ここに表示した沢山の調査をする機会を与えて頂きました。

かわつてくる間、特に茨城大学に勤務してからは考古学専攻の学生125名を育ててきましたが、これらの学生の大半は東海村の遺跡調査を経て一人前の研究者に成長して行きました。私は茨城大学を退職して15年になりますが、現在も50名近い研究者が中国を含めて、考古学界で活躍して居ます。その中には博士の学位記を授与された者、大学で研究をつづける者、博物館・研究所の専門家、国・都道府県・市町村教育委員会の文化財保護担当等です。

今日は久しぶりに皆様にお会い出来ましたので、最初にお礼を込めてこのような報告をさせて頂き、前置きはこの位にして本論に入りたいと思います。最初にお断りしておきますが、私にとって会場皆さまは親しい身内ですので、話の途中でも結構ですから、不明な事がありましたらご質問下さい。

私の東海村での最初の発掘調査は1967年の真崎十文字から勝田に通じる計画道路の敷設に伴う須和間古墳群の調査です。この古墳群は横穴式石室を伴う後期群集墳7基として調査が開始されたのですが、それは7号墳1基だけで他は埋葬の痕跡が確認出来ませんでした。この調査を契機として私は当時勤めていた東京電機大学や文部省に研究費応募し、あるいは自腹で費用を負担して、東海村中央公民館を利用して頂き、県立太田一高・二高・東京電機大学高校の生徒の応援と國學院大学学生の指導を得て、この古墳群をすべて発掘調査して、大きな

成果を得る事が出来ました。

それは東京都八王子市の宇津木遺跡で発見された方形周溝墓の盛土による低丘の存否を解明する好結果でした。方形周溝墓の発見者である大場磐雄先生は『常陸須和間遺跡』の序文に「方形周溝墓封土の存否を茂木君が東海村で解き明かしてくれた。」と書いて下さった。

「方形周溝墓」というのは、周囲に方形の溝が廻っていて、埋葬施設があるものとなない場合がある。発見当初からマウンドがあるかないかが問題になっていました。それが須和間遺跡で証明されたのです。これは大変な成果で、当時平凡社から発行された『世界考古学辞典』にこの事が紹介されています。



須和間遺跡報告書表紙

次は1976年に実施した須和間12号墳の調査です。そのころ私は東京電機大学高等学校に勤めていたが、教育委員会の文化財係の佐藤義文さんから、古墳の所有者からサツマイモ畑の真ん中に古墳があり、横穴式石室が露出しているのだから耕作するのに邪魔なので何とかならないかと相談され、その善後策を相談された。私は須和間古墳群の調査でこの古墳に関しては十分理解していたので、発掘調査

をした上で検討する事にした。調査の結果石室は柔らかい泥岩製で既に天井石は全て除去され、既に盗掘されたものであり、副葬品は取り除かれ少量の玉類と錆びた鉄片のみであったので耕作の邪魔にならないように石室の上部を1m程切り取って石室内に埋めて、耕作に支障の無い様に埋め戻すことにした。ところが石室東壁の奥壁よりの上部とそれに接する東壁底部から線刻された絵画が検出された。上部は足の長い水鳥で後者は雑な呪い人形であった。水鳥は泥岩の化粧された面に描かれ、後者は化粧面が剥離した後に描かれている事が明確であった。私は東京国立文化財研究所の知人と相談して、水鳥の絵を保存するためには切り取って屋内で管理する事が必用との結論に達し、計画通りに埋め戻した。調査後この水鳥が6世紀代のものであるか、後世の落書きであるか理解するのに沢山の時間を必要としたが、結論が出ず報告書が刊行できなかった。



舟塚1号墳出土人物埴輪 (県指定文化財)
(撮影：森昭氏)



水鳥の線刻壁画 (撮影：森昭氏)

私はこの水鳥の絵を記録に残すために考古学写真家森昭氏に撮影をお願いした。彼は素晴らしい写真家であつた。彼の遺跡調査には必ず記録写真をお願いした。この埴輪の写真は彼の傑作です。舟塚古墳の人物埴輪の写真です。

1988年秋に中国の友人から西安交通大学構内の工事現場で前漢時代の壁画墓が発見され奥壁に水鳥の絵が大きく描かれているので見学しませんかと電話で知らせてきた。私はその頃西北大学で毎年講義をしていたので翌1989年3月に訪中してこの壁画を調査させていた。古代中国では死者の靈魂を崑崙山に送るのは頸の長い水鳥であるという伝承があり、極彩色の雄大な霊界の絵画の世界であつた。私は帰国して一気に報告書を完成させた。それは発掘調査の13年後であつた。

この古墳の調査中に谷を挟んだ南側で南台団地の大造成工事が行われていた。古墳の調査が終了に近づいた頃に佐藤さ

んと二人で現場を訪ねると削り残された地形の断面に沢山の古代住居跡の断面が露呈されていた。これが契機となって1976年夏には小澤野遺跡の発掘調査が実施された。この調査は私が茨城大学の教員になって最初の仕事でした。

この調査は行政上大変な難問題を抱えてスタートした。当時の茨城県では考古学的遺跡の悉皆調査は殆ど実施されておらず、これも周知の遺跡ではなかったので、常陸木材地所による開発申請が提出され、県教育委員会が開発を承認しており、法的措置が済んでいたのである。真崎浦に面する南側の一部を除いて大半は削り取られていた。そして現実的には造成現場に複数の古代住居跡が黒々と断面を曝け出していたのである。村教委から急遽ストップをかけられた開発側は正に

青天の霹靂であったろう。工事を停めた村とそれに応じた常陸木材地所の素晴らしい連携で、1ヶ月の間に重複も含めて古墳時代から平安時代にかけての48棟の竪穴住居跡と倉庫跡と想定される1棟の高床式遺構が記録されたのである。

私はこの調査を正確に記録し後世に伝える為に県下の発掘調査としては初めて考古学写真家森昭氏に1ヶ月常駐して頂いて全ての写真を彼に担当して頂いた。最後は発掘された遺構全体をヘリコプターによる空撮で仕上げて頂いた。さらに報告書はコロタイプ印刷を京都の真陽社に依頼してこれも県下最初の立派な『小澤野』を刊行した。その題字は後に文化勲章を授与される奈良県立橿原考古学研究所所長末永雅雄博士から頂いた。

次は1978年2月に調査した部原遺跡についてご紹介します。この遺跡も周知の遺跡ではなく、日本原子燃料工業株式会社の東海工場造成工事による開発申請が村に提出され、私に現地立会調査を依頼された。その結果広大な敷地の2か所に縄文式土器片と土師器片の散布が確認され、発掘調査が実施された。発掘調査の結果A地点からは縄文時代土壙墓8基、弥生時代住居跡1棟、B地点からは古墳時代初期の住居跡4棟が発見された。

この遺跡で注目される事はA地点の弥生時代住居跡に出入り口の施設が確認調査された事である。これは全国的にも大変貴重な遺構である。更にB地点の2号住居跡の土器の出土状況から弥生式土器

と土師器が相伴している事実が確認されたのです。これまでの研究では弥生式土器と次の時代の土師器は絶対相伴しないというのが定説でした。ですから私は県内の研究者からあの調査はおかしいと大変ないじめにあいました。しかし事実は事実ですから、調査に参加した学生には「多数決は真理ではない」事を学ばせることが出来ました。教科書で学ぶ日本の歴史では、縄文時代と弥生時代は連続しない文化として記されています。しかし私はそうではなく、縄文時代の文化を元に弥生文化が形成されると考えています。中国の歴史の変遷を学ぶと新石器時代の各文化が春秋時代五覇者となり戦国七雄を経て秦の統一と継承されています。この時代区分の方が日本史の区分より論理的に正しいと私は思います。東海

村の遺跡が新しい日本の時代区分を整理せよと私は主張している様に思います。1983年から1985年にかけて村内遺跡の悉皆調査が行われました。1983年秋に文化財係の町野博さんから「東海村では、なにかやるたびに遺跡が発見され、開発する時に困るので、前もって教育委員会がどこに遺跡があるか知っておきたい。そうすれば保存に対しても手の打ちようがある。先生何とかありませんか」と相談された。私は同様の事が先年土浦市から「科学万博博覧会前に市内遺跡の実態把握をしたいので」と相談され、3年かけて310ヶ所の遺跡を記録したことを伝えた。私の遺跡悉皆調査の基本的方針は日本の土地所有は中国と異なり、私有地である。それを原則としてその行政区域の『水経注』を作成して後世に伝える事である。『水経注』というのは古代中国で作成された歴史的な遺跡を記録した書物です。それを参考にしたのです。しかしこの調査で記録されると、全ての遺跡が周知となり、文化財保護法保護対象になる事を念頭に置いて記録しなければなりません。日本の遺跡は今まで所有者が個人として保護して頂いた。大きくエリアを抑えようと土地所有者の弊害を招く事になる。それを少しでも緩和するためには、遺跡としての範囲を出来るだけ狭く抑える事である。しかし小さな遺跡が数多く記録されることになるのである。この調査で縄文時代58遺跡、弥生時代45遺跡、古墳時代100遺跡、奈良平安時代28遺跡、古墳59基（前



弥生式土器と土師器が相伴して出土する（部原北遺跡）

この遺跡で注目される事はA地点の弥生時代住居跡に出入り口の施設が確認調査された事である。これは全国的にも大変貴重な遺構である。更にB地点の2号住居跡の土器の出土状況から弥生式土器と土師器が相伴している事実が確認されたのです。これまでの研究では弥生式土器と次の時代の土師器は絶対相伴しないというのが定説でした。ですから私は県内の研究者からあの調査はおかしいと大変ないじめにあいました。しかし事実は事実ですから、調査に参加した学生には「多数決は真理ではない」事を学ばせることが出来ました。教科書で学ぶ日本の歴史では、縄文時代と弥生時代は連続しない文化として記されています。しかし私はそうではなく、縄文時代の文化を元に弥生文化が形成されると考えています。中国の歴史の変遷を学ぶと新石器時代の各文化が春秋時代五覇者となり戦国七雄を経て秦の統一と継承されています。この時代区分の方が日本史の区分より論理的に正しいと私は思います。東海村の遺跡が新しい日本の時代区分を整理せよと私は主張している様に思います。1983年から1985年にかけて村内遺跡の悉皆調査が行われました。1983年秋に文化財係の町野博さんから「東海村では、なにかやるたびに遺跡が発見され、開発する時に困るので、前もって教育委員会がどこに遺跡があるか知っておきたい。そうすれば保存に対しても手の打ちようがある。先生何とかありませんか」と相談された。私は同様の事が先年土浦市から「科学万博博覧会前に市内遺跡の実態把握をしたいので」と相談され、3年かけて310ヶ所の遺跡を記録したことを伝えた。私の遺跡悉皆調査の基本的方針は日本の土地所有は中国と異なり、私有地である。それを原則としてその行政区域の『水経注』を作成して後世に伝える事である。『水経注』というのは古代中国で作成された歴史的な遺跡を記録した書物です。それを参考にしたのです。しかしこの調査で記録されると、全ての遺跡が周知となり、文化財保護法保護対象になる事を念頭に置いて記録しなければなりません。日本の遺跡は今まで所有者が個人として保護して頂いた。大きくエリアを抑えようと土地所有者の弊害を招く事になる。それを少しでも緩和するためには、遺跡としての範囲を出来るだけ狭く抑える事である。しかし小さな遺跡が数多く記録されることになるのである。この調査で縄文時代58遺跡、弥生時代45遺跡、古墳時代100遺跡、奈良平安時代28遺跡、古墳59基（前



上空から見た小澤野遺跡（撮影：森昭氏）

方後円墳4・円墳33・方墳2・横穴20等
等を記録した。この調査結果は『東海村
の遺跡』として刊行して頂いたので私は
村史に残る仕事をさせて頂いた。
次は1999年8月茅山古墳（旧中道
前5号墳）の調査です。



東海村の遺跡

この年の発掘調査は石神小学校の校舎
再建に関する茅山古墳の調査である。こ
の学校の旧校舎再建の際に大量の埴輪が
出土し、学校に保管されているが、その
当時は発掘調査が行われなかったのだ
の。詳細は全く記録されていない。茨城県
史料に埴輪について調査された報告があ
るのみである。しかし埴丘は削平され、
一部が校舎内に大きな樗2本と共に花壇
として子供たちの眼を楽しませていた。
教育委員会としては現在の校舎部分をグ
ランドとし、現在のグラウンドに校舎を新
築する設計で計画が最終的に決定した。
そこで樗のある地点が古墳の跡であるか
の調査を相談された。そこで私は樗の間
に1m幅のトレンチを設定して発掘した
所、地山ローム面を掘り込んだ埋葬施設
が確認された。それにより常陸の古墳を
研究する上で大変重要な事実が判明し
た。通常考古学での確認調査の場合は遺

構を確認して本体調査は中止するのが本
道である。しかし私はこの古墳の調査に
関しては、埋葬施設本体の調査を行った。
私は密かにこの墓葬を久自国造墓と想定
しており、この位置から発見された事は、
墳丘の築造が埋葬後であると判断したか
らである。その場合に何を副葬したかを
知りたかったからである。真弓石を使用
した白色片岩の箱式石棺が良質な粘土で
包まれ、更にその周囲を丸い河原石で充
填していたのである。そして副葬品は直
刀1振、鉄鎌一束、刀子1口等であった。
私の予想が的中したのである。その後旧
校舎が解体された時点で、この墳丘を残
し周隍跡の全面発掘調査を実施して、大
量の埴輪片を採集したが以前に出土した
ものとは接合出来る資料は含まれて居な
かった。しかも古墳の周囲に樹立された
円筒埴輪を中心とする埴輪群は全て周隍
内に転落した状態であった。こうした事
実から、この古墳は被葬者が亡くなった
後に築造された事は明確となり、卑弥呼
以来七世紀初頭まで継続された冊封関係
による寿陵制が終焉を迎えた事が証明さ
れたといえるのである。

私の東海村での最後の発掘調査は真崎
5号墳の調査である。2005年8月で
ある。この調査は2001年に真崎古墳
群を公有化して古墳公園として保存する
計画で古墳群の全体図と各古墳の測量調
査を行っていた。その中で5号墳が纏向
型の前方後方形である事から、村主催で
の発掘調査が実施されることになったの
である。発掘調査の結果常陸最古の古墳

であることが判明し、埋葬施設は後方部
頂に掘り込まれた、日本最初の木蓋墳室
を命名された。この遺構の調査は大変高
度な発掘技術が必要とする所から、私は
考古学教室の卒業生を総動員し、その上
私が奈良県立橿原考古学研究所の特別指
導員を拝命している関係で、奈良県で主
要な古墳の調査の経験者に指導を仰いで
発掘を成功させることが出来、この名称
を得たのである。この結果は翌年月5に
明治大学で開催された日本考古学協会総
会で私と岡林孝作氏によって全国に紹介
された。

これが東海村で研究をさせて頂いた私
の成果である。沢山の遺跡を調査させて頂
き、研究者として博士の学位記を授与
され研究者冥利に尽きる事が出来たこと



茅山古墳の埋葬施設

に感謝して話を終りたいと思います。あ
る時清水澄夫教育長に東海村の歴史につ
いて生徒用の副読本を書いて欲しいと依
頼されたのですが、お答えする事が出来
ませんでした。これから新しい視点で日
本の古代史を考古学から書き直したいと
構想して居ます。又是非この会場で「久
自國王墓について」お話ししたいと思
いますのでご期待下さい。ご清聴ありが
うございました。



より学びたい方のために、 茂木雅博先生が、講演中に出てきた 遺跡等の書籍を紹介します。

○大森信英著

『常陸國村松村の古代遺蹟』

茨城県那珂郡村松村教育委員会

1955

この書は原研誘致以前の村松村が当時茨城高校の教諭であった大森信英先生に依頼して、村内の主要遺跡を調査してまとめた東海村村松地区の考古学調査報告書である。当時としては我国でも例を見ない地方自治体が刊行した稀有に近い書物である。この書が当時原子力研究所誘致の一端を担ったとも言われた。國學院大學の大場盤雄博士は序文で内容を絶賛して最後に「茨城県全体延いては関東における考古学的記録として貴重なものとなるであろう」と結ばれている。是非一読して頂きたい。

○茂木雅博編

『常陸須和間遺跡』

雄山閣出版 1972

この書は真崎十文字から勝田に通じる村道を新設する際に、茨城県考古学会(会長大森信英)が造成前に発掘調査を実施し、その後茂木が3年に渡り継続して調

査研究を行った研究報告書である。特に当時発見間もない「方形周溝墓」の墳丘の存否論争に決着をつけた遺跡として高く評価されている。その詳細が記録されており、村の遺跡として全国的に最も周知されている遺跡である。

○関俊彦
『須和間』『世界考古学事典(上)』
平凡社 1979

「1967年茂木雅博が調査した。幅の狭い丘陵上に方形周溝墓7基がある。それまで方形周溝墓は墳丘を持つものが少なく、本遺跡のように2m近い盛土をもつものは稀である」と紹介している。

○茂木雅博編

『須和間12号墳の調査』

東海村教育委員会 1989

本書は小さな古墳の調査報告書であるが、結びに「石室に描かれた水鳥の意義」という文章を掲載している。現在は消滅してしまった壁画を知る貴重な報告書である。

○茂木雅博編

『小澤野』

東海村教育委員会 1978

現在の南台住宅団地の宅地造成前の発掘調査報告書である。この報告書はサブタイトルが「茨城県東海村須和間地区における古代集落の研究」とある様に単なる遺跡の発掘報告書とは異なり、専門家による地形・地質及び民俗調査の記録考察編も含まれている。更に図版として使用された写真は森昭氏が担当した素晴らしい写真で埋め尽くされている。その上写真は100年後も変色しないと言われるコロタイプ印刷で、しかも京都真陽社工房で印刷されたものである。東海村が県下の文化財保護の先頭にある事はこうした伝統を踏まえた上で先端的な報告書を刊行している点も理解して頂きたいと私は思います。

○茂木雅博編

『常陸部原遺跡』

茨城県東海村教育委員会 1982

1978年2月に発掘調査を行った日本原子燃料工業株式会社東海工場の新設に伴う事前調査の報告書である。特に注目される点は講演では触れませんでした。弥生時代住居跡から糸を撚る道具としての紡錘車が9点出土して居ます。この点に関して三浦正人氏が古代常陸の紡績問題と関連付けて考察して居ます。また共伴した弥生式土器と土師器に関して県下48遺構を紹介して正統性を論じて

います。ご一読ください。

○松浦隆・茂木雅博編

『東海村の遺跡』

東海村教育委員会 1986

本書は1983年12月から1985年3月にかけて実施した村内遺跡の悉皆調査の報告書である。本村における1985年に確認された遺跡が要領よく書かれており「東海村の水経注」と私は自負している。東海村の考古学研究の原典として利用されている。

○茂木雅博著

『日本の古代遺跡36 茨城』

保育社 1987

本書は考古学者森浩一氏が企画編集した全六十巻の全国都道府県の古代遺跡を紹介するシリーズである。最初に茨城県の考古学史を紹介して、鬼怒川流域・筑波山と桜川流域・霞ヶ浦北浦沿岸・那珂川流域・久慈川とその以北・常陸国風土記の世界等六章構成である。東海村については第五章で縄文時代から弥生・古墳時代と主要遺跡を紹介している。

○茂木雅博著

『ふるさと文庫』

『身近な郷土の遺跡―古墳編―』

筑波書林 1988

本書は『いはらき』に連載した身近な

郷土の遺跡全七十話の中から古墳47基を紹介している。東海村分では須和間遺跡・権現山古墳・別当山古墳の三基を紹介している。

○稲村繁著

『人物埴輪の研究』

同成社 1999

本書の著書稲村氏は東海村小澤野遺跡の発掘調査を学生の中心として実施した考古学の復元実測調査を嚆矢として埴輪研究に邁進し、我が国を代表する研究者に成長した。その第一作が本書である。東海村の遺跡で考古学研究の世界へ導かれ、成長した彼の著作には東海村の香りがみなぎっていると私は思っている。それを読み取っていただきたい。

○永井三郎・茂木雅博共編

『常陸権現山古墳調査報告』

東海村教育委員会 2001

本書は1999年10月に日本原子力研究所権現山独身寮の改築に伴い教育委員会が立会調査を実施した調査報告書である。本墳は1977年7月から8月にかけて測量調査を実施していたが、その測量図が本書で公開された。立会調査という制約の中で南側の括れ部附近の周障の幅を確認できた。

○永井三郎・茂木雅博共編

『常陸真崎古墳群―測量調査報告書―』

東海村教育委員会 2002

本書は東海村が遺跡公園として計画中の真崎古墳群の現状を把握するために全体測量が必要となり、雑木伐採と保存状況を図化したもので、此の測量調査によって5号墳が4世紀代の前方後方墳である事が判明した。更に1号墳は古墳時代終末期の多角形墳、4号墳は円筒埴輪を伴う後期古墳である事が判明した。特に現存8基が4世紀から7世紀と時代的に大変バラエティーに富む古墳群であることが明確となった。

○森昭・稲村繁著

『人物はにわの世界』

同成社 2002

本書は森昭氏が雑誌『歴史公論』に1975年12月号から1977年11月号まで24体62葉の人物埴輪の写真を連載したものを図版として、稲村繁氏が論考編を執筆した合作本である。この連載の第3に東海村の「手甲をつけた男のはにわ」として舟塚一号墳出土の埴輪が紹介されている。

○東海村教育委員会

『ふるさと歴史』 2009

「広報とうかい」にふるさと歴史として連載された自然や歴史に関する1998年度から2007年度までを一

冊にまとめたものである。考古学的記録を担当した茂木は以下である。珍しい埴輪を樹立する権現山古墳、茅山古墳の埋葬施設、えっこんな所に竈跡が御所内竈跡、江中子遺跡、真崎古墳群、別当山古墳、馬頭根竈跡、茅山古墳の第3次調査を終えて、茅山古墳の形象埴輪、茨城最古の古墳 真崎5号墳、白方5号墳、白方7号墳。

○高橋和成・米川暢敬・茂木雅博共編

『常陸茅山古墳』

東海村教育委員会 2006

石神小学校改築に伴う校庭内古墳の発掘調査報告書。1999年8月から2004年10月にかけて、改築前に発掘調査を実施して、一部保存の為に計画変更を行い新校舎とグラウンドが整備された。膨大な埴輪片の整理を経て2006年に報告書が刊行された。特に学際的成果として人骨・赤色顔料の成分分析・布の科学的調査・貝珠の分析等が報告され、稲村氏が膨大な埴輪を整理検討した論文が掲載されている。更に茂木が非寿陵について詳細な研究成果を公表している。

○高橋和成・茂木雅博共編

『常陸真崎古墳群』

東海村教育委員会 2006

本誌は2000年に測量調査を行って発見した多角形墳の1号墳の確認調査と前方後方墳である5号墳の発掘調査報告

書である。私の東海村における最後の発掘調査である。結果的には現時点で茨城県最古の纏向型の形態をした古墳であり、しかも寿陵として解釈した。大変高度な発掘技術を要したために奈良県立橿原考古学研究所のベテラン研究員の現地指導を受けて発掘調査を成功させることが出来た。私は長い間お世話になった東海村に恩返しが出来たのがうれしかった。

○東海村教育委員会

『ふるさと歴史 第二集』 2019

「広報とうかい」にふるさと歴史として2008年4月から2017年3月まで連載された自然や歴史に関する記録の第二冊である。茂木の分は以下の通りである。

須和間古墳群、須和間12号墳の水鳥の壁画、御所内貝塚の土偶、部原遺跡、埴輪犬、里帰りする武人埴輪、旧動燃敷地内出土の武人埴輪、中道前6号墳、大場磐雄先生と東海村、斎藤忠博士と東海村。

縄文人が選んだ石、瑪瑙。Episode 1

東海村の遺跡調査団

石が語る歴史

私たちが普段何気なく歩いている地面の下には、遙か昔にもこの地に人々が暮らしていた痕跡が残されています。これを「遺跡」と呼んでいます。東海村には現在、178カ所の遺跡があります。その中には発掘調査が行われ、具体的に「この遺跡がいつの時代に、どのように利用された場所なのか」ということが分かった遺跡もあります。

また遺跡からは、生活の道具、装身具、武器など、過去の文化を物語る「遺物」が発見されます。これらの遺物は、粘土、石、樹木、動物の骨角、金属など、様々な材料から作られています。

その中で、石から作られたモノを「石器」や「石製品」と呼んでいます。古来より人々は、様々な種類の石に目を向け、モノを作るための石材に利用してきました。東海村では、このような人と石の関わりが今から約3万3000年前（旧石器時代）に始まり、その後も今日に至るまで、石は人々の身近な存在であり続けています。

つまり「石」には、私たち人類の歴史が刻まれているということです。例えば、石器や石製品などに使われた石の種類や

その産地を調べることは、物流の歴史を解明する重要な手立てとなります。

今、物流と聞くと、商品の運搬や保管というイメージがありますが、ある場所から別の場所へモノが動くという視点で見れば、それは遙か昔から行われてきたことが分かります。

例えば、東海村の南部、照沼にある堀米A遺跡は、今から約5000年前の縄文時代のムラの跡です。ムラの中には墓地があり、そこから「硬玉製大珠」という珍しい装身具が発見されました（写真1）。この装身具は、東海村から遠く離れた新潟県糸魚川で産する「翡翠」という石で作られています。



写真1 堀米A遺跡出土の硬玉製大珠

このことは、縄文時代に新潟県と東海村との間に、何らかの交易があったことを示す重要な証拠となるわけです。つまり、この「翡翠」から一つの物流の歴史を見ることが出来ます。

瑪瑙製石鏃の謎を探る

では、その他の石器や石製品には、どのような石が使われたのでしょうか。

令和3年度に、こうした石材利用の歴史を解明するため、歴史と未来の交流館研究員（まる博研究員）と共に「東海村の遺跡調査団」というチームを結成しました。初年度は、古墳時代の祭祀具である石製模造品を調査し、その石材に茨城県北部の阿武隈山地（高地）で産出する蛇紋岩（滑石）と粘板岩が利用されたことを明らかにしました。

活動2年目の令和4年度は、縄文時代の石鏃に使われた石材の産地を探りました。今回は、その成果をご紹介します。また、昨年度に引き続き、調査にあたっては、千葉科学大学の菊池芳文博士のご協力を得ました。

東海村の村松では、村指定文化財のミズク土偶が出土した御所内貝塚、真崎貝塚などの縄文時代の遺跡が知られ、今



写真3 真崎貝塚の様子（阿漕ヶ浦西岸）



写真2 御所内貝塚の様子（押延十字路付近）と土偶



写真4 御所内貝塚出土石鏃

も畑部分に縄文人が食したヤマトシジミなどの貝殻、シカやイノシシなどの骨と歯、土器や石器が散布している様子を見ることができます(写真2・3)。

さて、写真4は御所内貝塚から出土した縄文時代の石鏃です。「鏃」とは、弓で矢を放った際、狙ったものに刺さる部分を指します。縄文時代の石鏃は、狩りに使う石の道具です。その石材を見ると、瑪瑙、碧玉、チャート、黒曜石など様々ですが、どの石も鋭利に加工しやすいという共通点があります。つまり、当時の人々は、石の道具を作る際、その機能に適した石を選んで作っていたということです。

使用頻度が高い道具の石材には、身近にある石を利用できるのが理想的ですが、条件に合う石がない場合は、居住地

から離れた地域まで足を運んで入手する必要がありました。では、石鏃に使われた石の場合はどうでしょうか。今回の調査では、複数ある石鏃石材のうち、「瑪瑙」という石に注目しました。残念ながら村内には、瑪瑙が産出する場所はありません。

私たちは、小さな石に秘められた謎を探るため、茨城県内の瑪瑙産地へ向かいました。

茨城の瑪瑙

瑪瑙とは、玉髓という石(鉱物)の一種で、石英の小さな結晶が集まってできたものです。一般的に縞模様がある玉髓を瑪瑙と分けていますが、今回は玉髓を含めて全て「瑪瑙」と呼ぶことにします。写真5は茨城県産の瑪瑙です。その特徴を見ると、表面には優しい光沢が見られ、色は透明感のある明褐色、白色、赤色、



写真5 茨城の瑪瑙

黒色など、色彩豊かな美しい石です。

さて、石材の産地を明らかにするには、近隣の瑪瑙産地で採取した原石と石鏃を比較する必要があります。そこで今回は、瑪瑙の産地として有名な常陸大宮市北富田・諸沢地域、常陸太田市天下野・上宮河内地域、常陸大宮市玉川、ひたちなか市磯崎海岸の石材調査を行いました。

山の瑪瑙

東海村の北方に連なる阿武隈山地(高地)の南西部では、古生代以降に形成された様々な石を観察することができます。その中で、常陸大宮市北富田・諸沢地域、常陸太田市天下野・上宮河内地域の瑪瑙は、約1500万年前に堆積した「男体山火山角礫岩」中の断層などに沿って脈として見られます。これらの瑪瑙は、江戸時代には「水戸火打ち」として重宝された名産品だったようです。



写真6 瑪瑙採掘場跡(常陸大宮市北富田)

写真6は、常陸大宮市北富田の瑪瑙採掘場跡です。現地は切り一面が瑪瑙です。本地域で栄えた瑪瑙産業の歴史を感じると共に、その自然が作り出した圧巻の光景に、思わず本来の目的を忘れて見入ってしまいました。また、常陸太田市天下野の険しい山中を進んで辿り着いた沢には、瑪瑙脈から崩れた大小様々な瑪瑙礫が転がっていました(写真7)。

すぐさま分析用に持ち帰る原石を採取し始めた調査団でしたが、沢の水に濡れて宝石のように輝く瑪瑙の誘惑に駆り立てられ、夢中になって集めた結果、手に持った袋が瑪瑙でいっぱいになりました。貴重な成果が得られましたが、余りにも重かったため帰りの山道に苦労しました(写真8)。いつかこの歴史ある瑪瑙(火打ち石)を使って、火起こしにも挑戦したいと思っています。

川の瑪瑙

続いて向かった玉川もまた瑪瑙の産地として有名です。玉川は、常陸大宮市から那珂市との境界を流れて久慈川に合流



写真8 山の瑪瑙(常陸太田市天下野採取)



写真7 調査の様子(常陸太田市天下野)



写真10 川の瑪瑙(常陸大宮市玉川採取)



写真9 調査の様子(常陸大宮市玉川河原)

しています。調査は、常陸大宮市内の玉川河原で行いました(写真9)。
調査当日は、本地域で有名な所謂「赤瑪瑙」を狙いましたが、残念ながら採ることができませんでした。前回の天

下野が大量だっただけに、メンバー全員が落胆の色を隠せませんでした。石材調査の難しさを痛感しましたが、後日、再チャレンジして色鮮やかな瑪瑙を採取することに成功しました(写真10)。
本地域の瑪瑙には、白色系と赤色系のものがあり、主に河床で礫として見られます。これらの瑪瑙礫は、約1700万年前に堆積した「小貝野層」を起源とします。有名な赤色系の瑪瑙は、白色系の瑪瑙に鉄分が侵入し、赤く変色したものと考えられます。
歴史的に見ると、奈良時代に編さんされた「常陸国風土記」には、玉川の瑪瑙に関する記述があり、古くから瑪瑙が重要視されていたことが分かります。

海の瑪瑙

最後の調査地は、ひたちなか市磯崎海岸です(写真11)。県中央部、磯崎町から平磯町の海岸は、約7500万年前のアンモナイト化石が発見された「平磯白亜紀層」で有名ですが、実はこの地域から特異な瑪瑙が見つかっています。

考えられます(菊池博士談)。
実は、この磯崎海岸の瑪瑙が石鏃の石材産地を知るための重要な手掛かりを握っていました。もう一度、御所内貝塚出



写真12 海の瑪瑙(ひたちなか市磯崎海岸採取)



写真11 調査の様子(ひたちなか市磯崎海岸)

土品を見てみましょう。

写真13は、瑪瑙製石鏃と黒色系瑪瑙の剥片です。とくに剥片を見ると、その特徴が磯崎海岸の瑪瑙に類似していることが分かりました。また同じことは、堀米

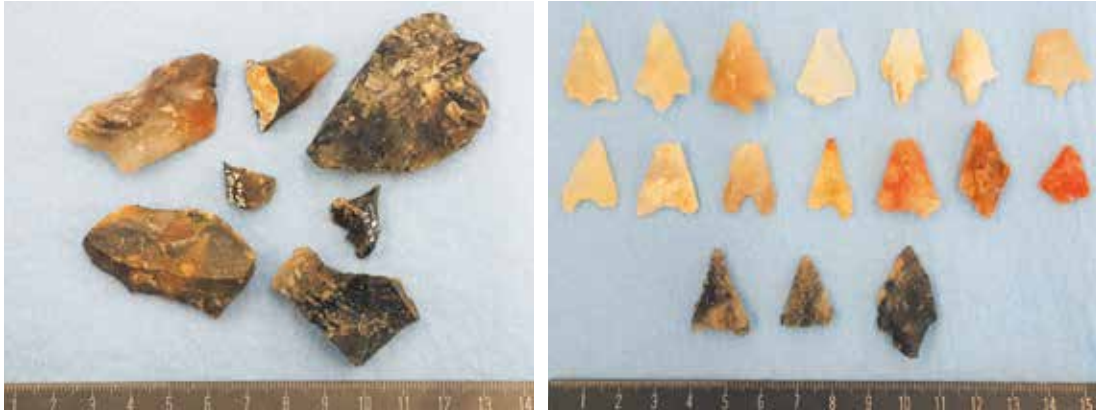


写真13 御所内貝塚出土品(左:剥片 右:石鏃)



写真14 堀米A遺跡出土の瑪瑙剥片・石核



写真15 海の瑪瑙(ひたちなか市阿字ヶ浦採取)

A遺跡出土品にも言えます(写真14)。このことは、非常に興味深い観察結果となりました。

ちなみに後日、追加調査を行ったところ、ひたちなか市阿字ヶ浦の海岸でも同様の瑪瑙を確認することができました(写真15)。ひたちなか市の海岸地域は、東海村から比較的近い場所にあるので、

当時の石材入手地選ばれた可能性はあります。今後も「海の瑪瑙」から目が離せません。

今も昔も瑪瑙を求めて

縄文時代の人々は、石器作りに必要な石材の一つとして「瑪瑙」を求めました。この石材採取は、生きるための重要な行動だったと考えられます。一方で私たちは、縄文時代の石鏃石材の産地を明らかにするため、実際に瑪瑙が採取できる県内の山、川、海岸を調査し、そこで様々な「瑪瑙」を手に入れました。

残念ながら現時点では、産地を特定することはできませんが、果たして、採取した瑪瑙の中に、縄文人が石材に選んだ瑪瑙はあるのでしょうか。この小さな石の故郷(産地)は、来年度、瑪瑙原石と石鏃を比較分析することで明らかにしたいと思います。

話は変わりますが、瑪瑙という石は、その見た目の美しさもあり、愛石家の間で人気が高い石としても知られています。実は私も今回の調査を経て、瑪瑙に魅了された一人となりました。

誤解のないように言うと、私にとっての瑪瑙は、第一に、縄文時代の石材利用を考えるための重要な研究対象です。しかし、調査を重ねるうちに、「この形が素晴らしい」とか、「この色味や縞模様が美しい」などと言いながら、調査の枠を超えて、おそらく他人からはどれも同じように見える瑪瑙を夢中になって集めていました。その結果、交流館に瑪瑙が

びっしりと詰まった箱の山が築かれました。この宝箱を見るたびに「分析に使う試料は、多いに越したことはない」と自分言い聞かせています。

しかし、本当に瑪瑙でいっぱいな場所は、交流館ではなく私の頭の中でしょう。物事に自分だけの楽しみ(目的)も見つけて熱中することが、より良い成果を生み出す原動力になると思っています。本稿をご覧になって、「東海村の遺跡調査団」の活動に興味を湧かされた方は、ぜひ私たちと一緒に古代ロマンを探求しましょう。なお、今回の調査については、当館学芸員の中泉雄太、林恵子が担当しました。

最後になりましたが、石材調査の実施にあたり、菊池芳文博士に多大なるお力添えをいただきました。ここに感謝の意を表します。まる博研究員の奥寺伊都美さん、谷口東子さん、飛田公子さんには、調査に熱心に取り組んでいただきました。心より感謝申し上げます。

(中泉 雄太)



写真16 東海村の遺跡調査団

令和4年度 とうかいまるごと博物館 実績

No	タイトル	日時	実施場所 / 集合場所	ジャンル	参加人数	主催
1	みんなですこやかウォーキング「白方 桜薫る田園コース」	4月8日	白方コミュニティセンター集合	健康	22	東海村健康増進課
2	博物館長と歩く植物観察会「桜とスマイル」	4月16日	歴史と未来の交流館	自然	7	東海村生涯学習課
3	大強度陽子加速器施設 J-PARC で探る宇宙と物質のなぞ	4月22日	AQBRC/ オンライン	科学	28	J-PARCセンター
4	春のがっちゃんこまつり	4月29日	歴史と未来の交流館	イベント	379	東海村生涯学習課
5	バックヤードツアー	5月3日	歴史と未来の交流館	展示解説	15	東海村生涯学習課
6	みんなですこやかウォーキング「ふれあいの森から深緑のコース」	5月6日	村立図書館西側 (ふれあいの森公園) 集合	健康	24	東海村健康増進課
7	磯の生き物観察会	5月15日	平磯海岸	自然	60	東海村の環境調べ隊
8	博物館長と歩く植物観察会「久慈川沿いの外来植物」	5月21日	なぎさの森	自然	6	東海村生涯学習課
9	大強度ビームの省エネ加速	5月27日	AQBRC/ オンライン	科学	22	J-PARCセンター
10	3館スタンプラリー	6月1日～6月30日	げんでん東海原子力館別館 原子力科学館 歴史と未来の交流館	イベント	206	げんでん東海原子力館別館 (公社)茨城原子力協議会 東海村生涯学習課
11	みんなですこやかウォーキング「石神 歴史ロマンの道コース」	6月3日	石神コミュニティセンター集合	健康	24	東海村健康増進課
12	博物館長と歩く植物観察会「海浜植物」	6月18日	村松コミセン	自然	8	東海村生涯学習課
13	石橋駅家はどこにあるのかー古代官道のナゾに迫るー	6月19日	歴史と未来の交流館	歴史	11	東海村生涯学習課
14	加速器を使ったがん治療 (BNCT)	6月24日	AQBRC/ オンライン	科学	50	J-PARCセンター
15	ホタル観察会①	6月25日	真崎コミセン周辺	自然	40	東海村生涯学習課
16	ホタル観察会②	7月2日	真崎コミセン周辺	自然	30	東海村生涯学習課
17	博物館長と歩く植物観察会「水田雑草」	7月9日	舟石川の水田	自然	7	東海村生涯学習課
18	魅力あふれるコケの世界	7月10日	歴史と未来の交流館	自然	30	東海村生涯学習課
19	初めての古文書講座1	7月16日	歴史と未来の交流館	歴史	20	東海村生涯学習課
20	げんでんスマイルフェア	7月16日	げんでん東海原子力館別館	科学	539	日本原子力発電(株)
21	とうかい子どもキャンパス 村松小ピオトープや敷地内の植物や昆虫を観察しよう!	7月23日	村松小学校ピオトープ前 (108段階段前)	自然	28	東海村生涯学習課
22	夏休みスタンプラリー	7月23日	げんでん東海原子力館別館 原子力科学館	イベント	500	日本原子力発電(株) (公社)茨城原子力協議会
23	昼の雑木林の虫の観察会	7月24日	真崎コミセン会議室	自然	40	東海村の環境調べ隊
24	虫博士	7月27日	図書館	自然	50	東海村の環境調べ隊
25	巨大な分子の形と動き	7月29日	AQBRC/ オンライン	科学	21	J-PARCセンター
26	古代の真崎を冒険しようー火起こしと古墳巡りー	7月30日	真崎コミュニティセンター 多目的ホール、 屋外広場(ゲートボール場)	歴史	50	東海村生涯学習課 (協力真崎の未来を考える会)
27	夜の雑木林の虫の観察会	7月30日	真崎コミセン多目的ホール	自然	30	東海村の環境調べ隊
28	放射線測定体験	8月2日～8月5日	原子力科学館	科学	343	(公社)茨城原子力協議会
29	巨大ワラ人形ー大助人形をつくらうー	8月3日	白方コミュニティセンター	歴史	15	東海村生涯学習課
30	展示解説ツアー (化石)・交流館バックヤードツアー	8月4日	歴史と未来の交流館	展示解説	107	東海村生涯学習課
31	勾玉を作ろう	8月5日	中央公民館	歴史	60	東海村の環境調べ隊
32	ミュージアムトーク 進化のふしぎ ポケモンは実は「進化」していない?!	8月6日	歴史と未来の交流館	自然	1	東海村生涯学習課
33	とうかい子どもキャンパス 白方小ピオトープや敷地内の植物や昆虫を観察しよう!	8月6日	白方小昇降口	自然	27	東海村生涯学習課
34	とうかい子どもキャンパス のぶちゃん先生の「けんび鏡」の 名人になってミクロの世界を見てみよう	8月9日	歴史と未来の交流館	自然	20	東海村生涯学習課
35	とうかい子どもキャンパス のぶちゃん先生の「けんび鏡」の 名人になってミクロの世界を見てみよう	8月10日	歴史と未来の交流館	自然	18	東海村生涯学習課
36	シェリーとビーチコーミング	8月11日	豊岡海岸	自然	13	東海村生涯学習課
37	化石クレーニングライブ	8月16日	調査室前	自然	11	東海村生涯学習課
38	博物館長と歩く植物観察会「ため池の植物」	8月20日	阿漕ヶ浦公園周辺	自然	10	東海村生涯学習課
39	夏の天体観測会	8月20日	総合福祉センター絆 多目的ホール	自然	30	東海村の環境調べ隊
40	東海村の川の魚たち	8月21日	歴史と未来の交流館	自然	30	東海村生涯学習課
41	石神城探検	8月21日	石神城跡	歴史	14	東海村生涯学習課
42	写真フィルムで素粒子「ニュートリノ」と宇宙の謎を研究する	8月27日	オンライン	科学	8	J-PARCセンター
43	みんなですこやかウォーキング 「総合福祉センター「絆」周回ヘルスロードコース」	9月2日	総合福祉センター絆集合	健康	中止	東海村健康増進課
44	アインシュタインスクール シリーズ「放射線・原子力の基礎講座」	9月7日	鉦田市 (旭地区学習等共用施設)	科学	33	(公社)茨城原子力協議会
45	真崎浦の干拓の歴史	9月11日	歴史と未来の交流館	歴史	32	東海村生涯学習課
46	博物館長と歩く植物観察会「虫こぶの観察」	9月17日	村松虚空蔵堂周辺	自然	13	東海村生涯学習課
47	ミュージアムトーク 真崎浦のナゾ	9月18日	歴史と未来の交流館	歴史	15	東海村生涯学習課
48	茨城県装置 iBIX で何が出来る?	9月30日	AQBRC/ オンライン	科学	27	J-PARCセンター
49	東海村の大地をめぐる 大地の成立ちとふれあいツアー	10月1日	村内	自然	40	NPO 法人いばらき TU・NA・GUジオ
50	キノコ観察会	10月1日	笠松運動公園・舟石川コミセン	自然	50	東海村の環境調べ隊
51	みんなですこやかウォーキング 「中丸 パワースポットと芋葉をめぐるコース」	10月7日	中丸コミュニティセンター	健康	中止	東海村健康増進課

No	タイトル	日時	実施場所 / 集合場所	ジャンル	参加人数	主催
52	アインシュタインスクール シリーズ「放射線・原子力の基礎講座」	10月8日	銚田市 (旭地区学習等共用施設)	科学	38	(公社)茨城原子力協議会
53	交流館 de 文化祭	10月8日	歴史と未来の交流館	展示		東海村生涯学習課
54	オオヒシクイを未来に残そう稲藪の空	10月9日	歴史と未来の交流館	自然	7	東海村生涯学習課
55	脱穀体験	10月10日	歴史と未来の交流館	歴史	27	東海村生涯学習課
56	バックヤードツアー・展示解説 (全体)	10月10日	歴史と未来の交流館	展示解説	15	東海村生涯学習課
57	博物館長と歩く植物観察会「土手斜面の植物」	10月15日	豊受皇大神宮	自然	11	東海村生涯学習課
58	ミュージアムで探る宇宙の謎	10月28日	AQBRC/ オンライン	科学	30	J-PARCセンター
59	ミュージアムトーク 生活用具と植物名	10月29日	歴史と未来の交流館	歴史	6	東海村生涯学習課
60	みんなですこやかウォーキング 「真崎 いちようとはなみずきの並木通りコース」	11月4日	真崎コミセン集合	健康	22	東海村健康増進課
61	解明するシリーズ1: 石神小野崎氏と石神城	11月13日	歴史と未来の交流館	歴史	60	東海村生涯学習課
62	博物館長と歩く植物観察会「身近な植物の実とタネ」	11月19日	石神城址公園	自然	18	東海村生涯学習課
63	解明するシリーズ2: 真崎氏と天神山城	11月20日	歴史と未来の交流館	歴史	60	東海村生涯学習課
64	続・宇宙にあるのか"ハイパー原子核"	11月25日	IQBRC/ オンライン	科学	24	J-PARCセンター
65	親子ウォーク☆まる博☆ どんな木の実があるのかな?歩きながら見つけよう!	11月27日	白方コミセン集合	健康	14	東海村健康増進課 東海村生涯学習課
66	天体観測会	11月27日	真崎コミセン多目的ホール	自然	40	東海村の環境調べ隊
67	解明するシリーズ3: 白方氏と白方城を解明する	11月27日	歴史と未来の交流館	歴史	60	東海村生涯学習課
68	みんなですこやかウォーキング 「押延・天神山 水と緑の里山コース」	12月2日	総合福祉センター絆集合	健康	19	東海村健康増進課
69	企画展「宇宙をさわる」	12月6日～1月15日	原子力科学館	科学	1844	(公社)茨城原子力協議会
70	クリスマスイベント	12月10日, 12月11日	原子力科学館	科学	482	(公社)茨城原子力協議会
71	探鳥会	12月11日	阿漕が浦運動公園周辺	自然	40	東海村の環境調べ隊
72	博物館長と歩く植物観察会「紅葉する樹木」	12月17日	須和間の雑木林	自然	11	東海村生涯学習課
73	東海村の埴輪図鑑	12月17日	歴史と未来の交流館	展示		東海村生涯学習課
74	げんでんウィンターフェア	12月17日, 12月18日	げんでん東海原子力館別館	科学	568	日本原子力発電(株)
75	冬の星座と惑星のお話&観察会	12月18日	原子力科学館	科学	62	(公社)茨城原子力協議会
76	素粒子の作る匠の技	12月23日	IQBRC/ オンライン	科学	23	J-PARCセンター
77	みんなですこやかウォーキング「阿漕ヶ浦・虚空蔵堂コース」	1月6日	村松コミセン	健康	20	東海村健康増進課
78	親子星空観望会&ナイトミュージアム	1月6日	原子力科学館	科学	42	(公社)茨城原子力協議会
79	海の古墳の被葬者にせまる	1月7日	歴史と未来の交流館	歴史	40	東海村生涯学習課
80	バックヤードツアー	1月7日	歴史と未来の交流館	展示解説	10	東海村生涯学習課
81	郷土カルタ大会	1月14日	歴史と未来の交流館	イベント	20	東海村生涯学習課
82	探鳥会	1月15日	押辺ため池周辺	自然	30	東海村の環境調べ隊
83	古墳巡りー須和間古墳群ー	1月15日	須和間古墳群	歴史	23	東海村生涯学習課
84	博物館長と歩く植物観察会「樹皮と冬芽で樹木を見分ける」	1月21日	須和間の雑木林	自然	16	東海村生涯学習課
85	古墳巡りー舟塚古墳群ー	1月22日	舟塚古墳群	歴史	26	東海村生涯学習課
86	いばらき県北の魅力再発見!茨城県北の大地と地域発展の足跡展	1月24日～2月4日	歴史と未来の交流館	自然		NPO 法人いばらき TU・NA・GUジオ
87	加速器で働く超伝導電磁石	1月27日	オンライン	科学	22	J-PARCセンター
88	茨城県北の大地の成立ちから東海村の自然を見直してみよう	1月29日	歴史と未来の交流館	自然	40	NPO 法人いばらき TU・NA・GUジオ
89	みんなですこやかウォーキング 「舟石川 まほろばの里と近隣公園コース」	2月3日	舟石川コミセン	健康	18	東海村健康増進課
90	探鳥会	2月5日	阿漕ヶ浦運動公園周辺	自然	45	東海村の環境調べ隊
91	企画展「はやぶさ2のミッションにチャレンジ!」	2月10日～3月26日	原子力科学館	科学	3660	(公社)茨城原子力協議会
92	展示解説 東海村の埴輪図鑑	2月11日	歴史と未来の交流館	展示解説	15	東海村生涯学習課
93	バレンタインイベント	2月11日, 2月12日	原子力科学館	科学	564	(公社)茨城原子力協議会
94	親子星空観望会&ナイトミュージアム	2月17日	原子力科学館	科学	41	(公社)茨城原子力協議会
95	博物館長と歩く植物観察会「冬越しする植物」	2月18日	歴史と未来の交流館周辺	自然	18	東海村生涯学習課
96	久自国造について	2月19日	歴史と未来の交流館	歴史	33	東海村生涯学習課
97	まこと。のゝから。を目指す真空の物語	2月24日	AQBRC/ オンライン	科学	32	J-PARCセンター
98	げんでん春のぼかぼかテラちゃんフェア	2月25日, 2月26日	げんでん東海原子力館別館	科学	453	日本原子力発電(株)
99	みんなですこやかウォーキング 「総合福祉センター絆 周回ヘルスロードDコース」	3月3日	総合福祉センター絆	健康	22	東海村健康増進課
100	リニューアルオープニングイベント	3月4日, 3月5日	原子力科学館	科学	478	(公社)茨城原子力協議会
101	おはなし「地球や惑星の誕生をさぐる!」	3月5日	原子力科学館	科学	68	(公社)茨城原子力協議会
102	博物館長と歩く植物観察会「ヒノキ林内のシダの芽生え」	3月18日	歴史と未来の交流館	自然	10	東海村生涯学習課
103	超伝導加速空洞開発@ J-PARC	3月24日	AQBRC/ オンライン	科学	26	J-PARCセンター
104	照沼家文書の世界	3月25日～5月7日	歴史と未来の交流館	展示		東海村生涯学習課
105	毎日クイズラリー	通年	原子力科学館	科学		(公社)茨城原子力協議会
106	科学館カタカナラリー	通年	原子力科学館	科学		(公社)茨城原子力協議会
107	来て、見て、知って!げんでん東海原子力館別館は楽しいことがいっぱい	通年	げんでん東海原子力館別館	科学	4902	日本原子力発電(株)



まる博ジャーナル

発行 令和5年3月31日

発行者 東海村教育委員会(東海村歴史と未来の交流館)

所在地 茨城県那珂郡東海村村松768番地38

印刷 山三印刷株式会社